

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 教養科目				人間探求科目		
講義名	[00012] 倫理学						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
倫理学とはどのような学問であろうか。「日本倫理思想史」という視点から、現代を生きる私たちのよりよい生き方・あり方を考えるために、特に古代の「神をめぐる思想」から、中世の「仏法をめぐる思想」について概説します。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
日本の倫理思想史についての基礎知識を身につけ、現代日本人の行動の基礎にある価値観を理解することを目指します。また、日本倫理思想史を学ぶことを通して、現代における自分自身の生き方・あり方を考えるヒントとし、自ら主体的に考察していく力を習得することを、本授業の目標とします。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
倫理学とは何かについて概観し、本講義における視点を明確にした上で、日本の倫理思想史をたどり、日本人の倫理意識の形成を学んでいきます。講義によって授業を進めますが、学生の深い理解に資するよう積極的にICTを活用します。また受講生が自分自身の問題として主体的に授業に参加するようディスカッションなどを行います。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学修としては、参考書等に目を通し、疑問をもって授業にのぞむこと。事後学修は、授業の内容を踏まえ、その問題について自分なりに考えてみること。事前・事後学修は最低でも各120分は必要である。なお、詳細は授業中に指示します。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業に取り組む姿勢40%、レポート60%で総合的に評価します。毎回授業後にリアクションペーパーを配付し、講義内容、意見・感想等を書いてもらいます。授業に取り組む姿勢は、このリアクションペーパーに基づいて評価します。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	講義ガイダンス						
第2回	倫理学とは何か（1）倫理学と日本倫理思想史						
第3回	倫理学とは何か（2）なぜ日本倫理思想史を学ぶのか、倫理の重層性						
第4回	神をめぐる思想（1）風土と神						
第5回	神をめぐる思想（2）日本の神の特徴						
第6回	神をめぐる思想（3）神と景観、祭祀						
第7回	神をめぐる思想（4）日本神話の発生と展開						
第8回	神をめぐる思想（1）古事記神話 上巻神話の概要						
第9回	神をめぐる思想（1）古事記神話 上巻神話の世界観						
第10回	仏法をめぐる思想（1）インド・中国仏教						
第11回	仏法をめぐる思想（2）日本における仏教の受容、聖徳太子						
第12回	仏法をめぐる思想（3）国家仏教、本地垂迹説						
第13回	仏法をめぐる思想（4）修験道						
第14回	仏法をめぐる思想（5）鎌倉仏教						
第15回	全体のまとめ プレゼンテーション						
【教科書・参考書】							
教科書：特に指定しない。参考書：『日本倫理思想史 増補改訂版』佐藤正英著（東京大学出版会）2012年、『日本の思想とは何か：現存の倫理学』佐藤正英著（筑摩書房）2014年、『古事記神話を読む 神の女 神の子 の物語』佐藤正英著（青土社）2011年ほか。							
【学生へのメッセージ】							
受講生一人一人が自らの問題として捉え、自分自身の考えを形成することを望みます。授業では、毎回受講生に積極的に問いかけ、自分の考えを発言してもらいます。							
【オフィスアワー】							
火曜日第1時限目と木曜日第5時限目							
【実務経験】							
日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 教養科目				人間探求科目		
講義名	[00016] 歴史学						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講 義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
歴史学とはどういう学問なのかについて講義する。調べ学修や巡見を通じて歴史を体感してもらう。歴史学は、過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実、及びそれらの関連を追究する学問であるので、歴史学を学ぶ意義を本授業で学修してもらいたい。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
歴史学とはどういう学問が修得し、調べ学修を行った日本史の時代や出来事等について理解できるようにする。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
講義形式を基本とするが、身延山という地域を歩く授業も取り入れることにする。日本史に関する調べ学修を行うので図書館に行って文献検索を行う時もある。アクティブラーニングを行うので、電子機器（ipad）を毎回持参すること。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学修120分：授業内容について予め調べ学習を行い、わからない語句等は辞書で調べておくこと。 事後学修120分：授業でやった内容について復習し、わからない箇所は辞書等で調べておくこと。							
【成績評価（方法・基準）】							
期末レポート（50%）、授業に取り組む姿勢（50%）							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	歴史学とはどういう学問か						
第2回	史実と伝承						
第3回	日本史の時代区分						
第4回	史（資）料とは						
第5回	旧暦と新暦						
第6回	日本の元号（1）						
第7回	日本の元号（2）						
第8回	日本歴史に関する調べ学修（1）						
第9回	日本歴史に関する調べ学修（2）						
第10回	日本歴史に関する調べ学修（3）						
第11回	日本歴史に関する調べ学修（4）						
第12回	調べ学修についての発表						
第13回	歴史散策1						
第14回	歴史散策2						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：特になし。参考書：小田中直樹『歴史学ってなんだ？』PHP新書、2004年。							
【学生へのメッセージ】							
歴史について調べ学修を行うので、毎回ipadやノートパソコン等の電子機器を持参すること。							
【オフィスアワー】							
授業開始前、終了後に質問等を研究室、教室で受け付けます。							
【実務経験】							
高等学校教員、博物館学芸員として勤務経験がある。							

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 教養科目		総合科目		
講義名	[00032] 人間関係とコミュニケーション【平成30年度生まで】				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	中野 宏子		ナカノ ヒロコ	nakano hiroko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
最近重要視される「コミュニケーション能力」とは何か、何を指してコミュニケーション能力というのか、幅広い領域にわたる「コミュニケーション」について、具体的な技術も含めて様々な角度から「コミュニケーション」について概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
コミュニケーションを形成する上で必要な人間の関係性を理解し、人間関係、コミュニケーションの基礎的な知識について学習します。また、自分の言いたいことを他者に理解できるよう具体的に述べられる力を身に付けることを、本授業の目標とします。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
授業では、コミュニケーションについての学説を正確に理解できるよう講義すると同時に、それらを現実の自分の問題としてひきつけて、思考できるよう、「聴く、話す、書く」などの具体的な実践を通してコミュニケーション能力を培います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前の学習では、各回の講義内容についてシラバスに記載した参考書による事前学修を毎回2時間以上行うこと、事後の学修では、配布プリントの内容に基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポート（60%）、授業内テスト（20%）、授業参画度（20%）授業参画度は毎回のリアクションペーパーにより総合的に評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	人間関係と心理（自己覚知）				
第2回	人間関係と心理（他者理解）				
第3回	人間関係と心理（ラポール）				
第4回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの意義）				
第5回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの概要）				
第6回	コミュニケーションを促す環境				
第7回	コミュニケーションの技法（物理的対人距離・心理的距離）				
第8回	コミュニケーションの技法（言語的コミュニケーション・非言語コミュニケーション）				
第9回	コミュニケーションの技法（傾聴）				
第10回	コミュニケーションの技法（受容・共感）				
第11回	機器を用いたコミュニケーション（プレゼンテーション）				
第12回	記述によるコミュニケーション				
第13回	チームマネジメントとコミュニケーションの基本				
第14回	チームマネジメントを行う際のコミュニケーション技術				
第15回	まとめ・総括				
【教科書・参考書】					
教科書：なし プリントを配布する。参考書：『入門コミュニケーション論』宮原哲（松柏社）2006年、『グローバル社会のコミュニケーション学入門』藤巻光浩（ひつじ書房）2019年、『メディア・リテラシー』菅谷明子（岩波書店）2000年。					
【学生へのメッセージ】					
現代社会に求められる「コミュニケーション能力」を受講生一人一人が自らの問題として捉え、落ち着いて他者の意見を聴く、自信をもって自分の意見を述べられるようになることを望みます。毎回受講生に積極的に問いかけ、発言してもらいます。					
【オフィスアワー】					
火曜日10：30～12：00と水曜日1時限目（大学事務室を通じて予約してください）					
【実務経験】					
山梨県教育委員会スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーク4年での実務勤務を活かして、コミュニケーションの重要性を感じられる授業にしたいです。					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 教養科目		総合科目		
講義名	[00033] 人間の尊厳と自立 法定科目				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	--	--	
担当者	村瀬 正光	ムラセ マサミツ	murase masamitsu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。人間の尊厳と自立を理解する為、基本的人権の理念、人権侵害等の社会問題を通して学ぶ。介護における尊厳の保持・自立支援を理解するために、具体的な生活場面の事例を取り上げて学ぶ。人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う内容とする。人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する内容とする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
授業前半は、スライド等を使用し授業を進める。授業後半は、受講生と一緒に議論し、理解を深める。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
講義毎の予習と復習のレポート：100%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	人間の多面的理解				
第2回	人間の尊厳と人権・福祉理念				
第3回	人間の尊厳 普遍的尊厳				
第4回	人間の尊厳 個別的尊厳・多様性				
第5回	自立の概念				
第6回	事例を通して「自立・自律」を考察				
第7回	事例を通して「自立・自律」を考察				
第8回	人権と尊厳 基本的人権				
第9回	権利擁護				
第10回	アドボカシー				
第11回	人権尊重				
第12回	スティグマ				
第13回	身体的な自立支援				
第14回	精神的な自立支援				
第15回	社会的な自立支援				
【教科書・参考書】					
『介護概論』三訂 介護福祉士養成講座 1 2 福祉士養成講座編集委員会（編） 中央法規					
【学生へのメッセージ】					
積極的に授業に参加するのを望む。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
腎臓内科医					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00034] 山梨県と峡南地域				
期間	通年（15回）		単位数	選択（2）	種類 集中
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho
	林 是恭		ハヤシ ゼキョウ		hayashi zekyo
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
山梨県峡南地域の歴史と文化について学ぶために3回の巡見を行う。予め巡見場所に関する調べ学習を行い、予備知識を得た上で巡見を行う。自ら歩いて見学することにより、峡南地域の歴史と文化を体感する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
峡南地域が山梨県の中でどういう地域か、理解することを到達目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
峡南地域の中でも、身延町、南部町、富士川町にスポットをあて、3回に分けて神社仏閣、史跡、文化・歴史施設等を巡見する。各回の巡見後にレポートを提出してもらう。また、「やまなし観光カレッジ」事業と連携しているので授業中に山梨県内のイベントに参加し、レポートを提出してもらう。毎回、1限は大学図書館で調べ学習を行い、それから巡見を行う。授業は集中講義で、6月6日、7月11日、10月24日の3回を予定している。諸般の事情によりこの日に授業ができない場合の予備日として11月21日、11月28日を設定する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
3回それぞれの巡見のための各回ごとに事前学修10時間、事後学修10時間を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
巡見した際の授業態度（10%）、授業に取り組む姿勢（50%）、レポート点（40%）にて評価する。 「やまなし観光カレッジ」事業のレポート提出も評価の対象とする。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	授業の概要説明、1回目巡見場所の調べ学習				
第2回	巡見1回目				
第3回	巡見1回目				
第4回	巡見1回目				
第5回	巡見1回目				
第6回	2回目巡見場所の調べ学習				
第7回	巡見2回目				
第8回	巡見2回目				
第9回	巡見2回目				
第10回	巡見2回目				
第11回	3回目巡見場所の調べ学習				
第12回	巡見3回目				
第13回	巡見3回目				
第14回	巡見3回目				
第15回	巡見3回目				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 3回の巡見には必ず出席すること。巡見場所、巡見日は、天候や訪問先の事情により変更することもある。巡見は基本的に学校のバスを利用するので交通費はかかりません。拝観料他が必要となる場合は予め受講者に連絡する。昼食は各自持参。バスで巡見するので受講人数に制限があります。開講日土曜日1限～5限となります。3回の開講日に注意してください。					
【オフィスアワー】					
授業内容等に関する質問があれば、3回の授業前後の時間に担当教員が対応する。毎回、1時間目に調べ学習を行うが、具体的な巡見場所を知りたい受講生は事前に担当教員に聞いてください。メール可 smochi(a)min.ac.jp					
【実務経験】					
望月真澄：峡南地域の博物館学芸員として勤務経験あり。 林是恭：身延山宝物館の学芸員として勤務。					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00035] 留学成果による単位認定				
期間	通年（1回）	単位数	選択（30）以下		種類 認定
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	学長				
	望月 海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
交換留学生の単位を認定します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
【授業外学修の方法（時間数）】					
【成績評価（方法・基準）】					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回					
【教科書・参考書】					
【学生へのメッセージ】					
【オフィスアワー】					
【実務経験】					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目	総合科目

講義名	[00037] サービスラーニング
-----	-------------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（1）	種 類	演習
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
-----	-------	-----------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

社会貢献活動となる活動を主題として、地域の課題について、それを体験し、まとめて整理して、内容を明かに認識して、解決に向けての方策を考え事前に試用し、改善を加えて、再実行できるプロセスが踏めるような授業構成とする。

キーワード：社会貢献、地域貢献、課題解決、PDCAサイクル

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

大学内で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題を解決するために組織的に社会的活動を行うことを通して、社会的役割や市民としての責任を感じ取ってもらうことを目的とする。学生はPDCAサイクルを理解して、その活用方法を学び、実際に運用し、課題解決の方法として実践できる力を成果とする

【授業方法（フィードバックの内容）】

峡南圏域で行われている地域活動を30時間以上行い、地域の課題を明確にする。地域活動とは、認知症カフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働、ボランティア活動等のことをいう。

【授業外学修の方法（時間数）】

地域活動を実施する前に、4時間以上の事前学習を実施し、活動目的や活動内容等の計画書を作成する。実施後は活動の振り返りを行い、6時間以上の事後学習を実施し、活動報告を文章化・言語化して行う。

【成績評価（方法・基準）】

事前学習での活動計画書の内容（10%）計画と活動報告が一致しているか（20%）、活動報告の内容（報告書30%とプレゼンテーション40%）で評価を行う。単位の換算上、5日以上参加しなければ単位を認定できません。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	オリエンテーション：サービスラーニングとは？
第2回	活動計画の構成と計画書の作成
第3回	活動前の事前準備（事業者との面談と打ち合わせ）
第4回	地域活動
第5回	地域活動
第6回	地域活動
第7回	地域活動
第8回	地域活動
第9回	地域活動
第10回	地域活動
第11回	地域活動
第12回	活動報告書の作成と地域課題の掘り起こし
第13回	地域課題に対する解決案の作成と修正
第14回	解決案の事業者への提案
第15回	事後報告会と全体の振り返り

【教科書・参考書】

「ボランティア論」川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2006年。

【学生へのメッセージ】

大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目
ボランティアとは、「助ける」と「助けられる」ことが融合した、魅力にあふれた活動である。ボランティア活動に、参加することは自分の成長にとっても得るものが多い。積極的に活動することを期待する。単位の換算上、5日以上参加しなければ単位を認定できません。

【オフィスアワー】

火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。

【実務経験】

元身延町教育委員

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目	総合科目

講義名	[00039] サービスラーニング
-----	-------------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（1）	種 類	演習
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
-----	-------	-----------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

社会貢献活動となる活動を主題として、地域の課題について、それを体験し、まとめて整理して、内容を明かに認識して、解決に向けての方策を考え事前に試用し、改善を加えて、再実行できるプロセスが踏めるような授業構成とする。サービスラーニングとの継続でも可であるが、なるべくならば他社、他所での異なる体験を積むことを良とする。
キーワード：社会貢献、地域貢献、課題解決、PDCAサイクル

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

大学内で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題を解決するために組織的に社会的活動を行うことを通して、社会的役割や市民としての責任を自覚できることを目標とする。学生はPDCAサイクルを理解して、その活用方法を学び、実際に運用し、課題解決の方法を実践できる力を成果とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

峡南圏域で行われている地域活動を30時間以上行い、地域課題への解決を図る活動を行っていく。地域活動とは、認知症カフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働、ボランティア活動等のことをいう。

【授業外学修の方法（時間数）】

地域活動を実施する前に、4時間以上の事前学習を実施し、活動目的や活動内容等の計画書を作成する。実施後は活動の振り返りを行い、6時間以上の事後学習を実施し、活動報告を文章化・言語化する。

【成績評価（方法・基準）】

事前学習での活動計画書の内容（10%）計画と活動報告が一致しているか（20%）、活動報告の内容（報告書30%とプレゼンテーション40%）で評価を行う。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	サービスラーニング の成果を踏まえた活動計画立案
第2回	活動計画書の具体的な作成
第3回	地域活動
第4回	地域活動
第5回	地域活動
第6回	地域活動
第7回	地域活動
第8回	地域活動
第9回	地域活動
第10回	地域活動
第11回	地域活動
第12回	地域活動
第13回	事後の振り返り、報告書作成
第14回	事後報告会
第15回	事後報告会と全体の振り返り

【教科書・参考書】

「ボランティア論」川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2006年。

【学生へのメッセージ】

大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目
受け身ではなく、自らが体験してそれを振り返り、文章や言葉として他者に伝えていくことをとおして学びを深めて欲しい。「我がまち」という意識を持ち、活動をおして地域の課題を明確にする意識を持って欲しい。

【オフィスアワー】

火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。

【実務経験】

宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 教養科目		総合科目		
講義名	[00044] 人間関係とコミュニケーションの基礎【平成31年度生より】 法定科目				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	中野 宏子		ナカノ ヒロコ	nakano hiroko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>(1) 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。 (2) 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。 人間関係の形成が、介護実践にとっての出発点であり基本的課題であることを、自己覚知や他者理解、コミュニケーション技術を通して学習する。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
利用者に対して、あるいは多職種協働で進めるチームマネジメントにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を養う。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
授業では、コミュニケーションについての学説を正確に理解するよう講義すると同時に、それらを現実の自分の問題としてひきつけて、思考できるよう、「聴く、話す、書く」などの具体的な実践を通してコミュニケーション能力を培います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前の学習では、各回の講義内容についてシラバスに記載した参考書による事前学修を毎回2時間以上行うこと、事後の学修では、配布プリントの内容に基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト、リアクションペーパー、授業への取り組み姿勢等を総合的に評価する。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	人間関係と心理（自己覚知）				
第2回	人間関係と心理（他者理解）				
第3回	人間関係と心理（ラポール）				
第4回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの意義）				
第5回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの概要）				
第6回	コミュニケーションを促す環境				
第7回	コミュニケーションの技法（物理的対人距離・心理的距離）				
第8回	コミュニケーション（言語的コミュニケーション・非言語コミュニケーション）				
第9回	コミュニケーションの技法（傾聴）				
第10回	コミュニケーションの技法（受容・共感）				
第11回	機器を用いたコミュニケーション				
第12回	記述によるコミュニケーション				
第13回	チームマネジメントとコミュニケーションの基本				
第14回	チームマネジメントを行う際のコミュニケーション技術				
第15回	まとめ・総括				
【教科書・参考書】					
『教科書：なし プリントを配布する。参考書：『入門コミュニケーション論』宮原哲（松柏社）2006年、『グローバル社会のコミュニケーション学入門』藤巻光浩（ひつじ書房）2019年、『メディア・リテラシー』菅谷明子（岩波書店）2000年。					
【学生へのメッセージ】					
現代社会に求められる「コミュニケーション能力」を受講生一人一人が自らの問題として捉え、落ち着いて他者の意見を聴く、自信をもって自分の意見を述べられるようになることを望みます。毎回受講生に積極的に問いかけ、発言してもらいます。					
【オフィスアワー】					
火曜日10：30～12：00と水曜日1時限目（大学事務室を通じて予約してください）					
【実務経験】					
山梨県教育委員会スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーク4年での実務勤務を活かして、コミュニケーションの重要性を感じられる授業にしたいです。					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00045] 身延町の福祉文化				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）		種 類
対象学年	--	2 年	3 年	4 年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
2020年度は講義と演習、そして学外において聞き取り調査を行い、地域文化と福祉の関わり、地域課題と福祉のあり方などにへの理解を深め、地域課題を解決するための基礎スキルの習得をおこなう。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
われわれが暮らしている「地域」ある福祉の多様性を理解し、豊かな「暮らし」を障がいのあるなしに関わらずすべての人々が享受できる社会形成に向けて、現在の「地域」にある福祉文化を概観し、その実像を把握できるようになることを目的の第一とする。インターネット上から得られる情報をプロジェクターを用いてプレゼンテーションができるようになることや、実際の現場から得られた情報を、先の情報と照らし合わせて適切に加工し、他者に伝えられようになることが目的の第二である。そして、それらの情報から導かれる課題を解決する具体案を作成できるようになることが目的の第三である。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
大学図書館、地域図書館などの資料を活用して、地域の歴史の中にある福祉文化を探索する。大学を離れて地域に出かけて実際の現場を見て、感じて、その意味を知り、地域の課題解決に向けた具体的な提言案を作成する。講義形式と自己学習型の演習形式、そして実験的な観察形式によるPBL型の授業となる。特に11回～15回の授業では、外部に赴き、「超高齢化社会のまちづくり」を基本コンセプトとしてPBL型の授業を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
講義形式：事前に指定された事項の理解に120分、事後には全体の復習と与えられた課題をまとめることに120分程度が必要となる。 演習形式：得られた情報加工をするために、事前に120分、事後には120分程度は必要となる。実践形式：実際の現場に出て情報を収集することに120分、得られた情報を整理加工することに120分までが事前学修、事後はプレゼンテーションの不具合の訂正や修正に150分程度は必要となる。					
【成績評価（方法・基準）】					
講義形式30%（プレゼンテーション20%、講義中の取り組みに10%）、演習形式ではプレゼンテーション発表に20%とその取り組みに10%、実践形式では、講義形式と演習形式の基礎を踏まえているかどうかにかんして20%、最終のプレゼンテーションに20%、その取り組みに10%となる。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション、福祉と文化の関係とその範囲				
第2回	身延町を理解しよう				
第3回	身延町の福祉実践と民間の活動				
第4回	資料からみることができる身延町の福祉（1）				
第5回	資料からみることができる身延町の福祉（2）				
第6回	プレゼンテーション（1）				
第7回	地域図書案の活用（地域情報の入手と加工）				
第8回	地域図書館の活用（情報加工技術）（1）				
第9回	地域図書館の活用（情報加工技術）（2）				
第10回	プレゼンテーション（2）				
第11回	福祉に関する地域課題の検出（PBL型）アンケート項目の設定				
第12回	地域課題解決に向けての方策検討（PBL型）アンケート内容の検証				
第13回	地域課題解決具体案の作成（PBL型）				
第14回	地域課題解決具体案の作成（PBL型）				
第15回	身延町の福祉文化の多様性理解と問題解決策のプレゼンテーション（3）				
【教科書・参考書】					
教科書は特になし。授業において適宜に紹介する。参考書も授業において紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目「福祉文化」という聞き慣れない言葉であるが、欠席することなく履修していただきたい。履修した学生で質問をお持ちの方は、ikegami(a)min.ac.jpまで、メールにて質問するようにしてください。					

【オフィスアワー】

池上要靖：火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。

高橋賢充：火曜日8:50～10:20 水曜日10:25～11:55

【実務経験】

池上要靖：保護司、宗教法人智寂坊代表役員、元教育委員

高橋賢充：社会福祉士資格・精神保健福祉士資格・北海道社会福祉協議会・札幌市麻生総合センター館長・厚真町地域包括支援センター社会福祉士

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目	専門基礎科目

講義名	[00508] 仏教福祉学概論				
-----	-----------------	--	--	--	--

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	1年	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
-----	-------	-----------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

仏教と社会福祉の関係を、仏教発祥の地インドから概観して、現代の社会福祉の問題点を、仏教的活動からどのように理解できるかを考察する。また、仏教は、自己と他者との関係について、特に優れた思想を有している。この思想を社会福祉学の観点から捉えなおし、現代的エートスに置き換えることが可能かどうかを考察する。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

本学の教育の三本柱の一つである社会貢献を実現してゆくために、現代の福祉社会に有益な思想体系として再構築されたものを仏教福祉学と位置づけて、その概要を把握することを目的とする。そのため、仏教思想に裏付けられた福祉ワークの重要性を理解し、現代の社会福祉へどのようなアプローチが可能かについて、立案し自ら主体的に考えられるようになることを目標とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

テキストにそって、プロジェクターなどを用いて、解説を加える講義形式である。必要な資料は、予め本学HP上にあるファイルキャビネットに収納してあるので、そこからダウンロードすること。講義中には、専門用語に関する質問や、課題を出すので、検索用使用するタブレットは必携である。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修について：第2回目以降の講義の最後に次回講義の内容をテキストページで指定する。また、必要に応じて資料や事例をファイルキャビネット（初回に説明）から各自ダウンロードして参照すること。約2時間を要する。事後学修について：講義中のノート整理や、難語理解のための調べ学修などに約2時間を要する。

【成績評価（方法・基準）】

最終確認テスト50%、授業中の取り組み30%、中間レポート10%、ノート提出10%。授業中の取り組みの基準は、テキストの当該箇所の理解と、質問、授業中の積極的な姿勢により判断する。中間レポートの内容は、テキスト・資料の理解が深まっているかを判断する。ノート提出は、事前事後の学修成果も含んだ講義内容についてまとめたものを、最終回の講義終了1週間以内に提出してもらう。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	オリエンテーション - 授業の進め方とテキストと資料の紹介 -
第2回	仏教社会福祉とは何か？(テキストpp.9-31)
第3回	仏陀の教え - 自己と他者、四無量心、四正勤、福田思想 - (テキストpp.109-118)
第4回	大乘仏教の思想と社会福祉 - 菩薩、縁起、回向、平等、報恩、救済 - (テキストpp.109-118)
第5回	仏教社会福祉のあゆみ(1) - 先人の偉業 - (テキストpp.35-43)
第6回	仏教社会福祉のあゆみ(2) - 近代～戦後 - (テキストpp.44-64)
第7回	仏教社会福祉の支援(1) - 生活弱者支援 - (テキストpp.67 73、101-106)
第8回	仏教社会福祉の支援(2) - 高齢者支援 - (テキストpp.80-88、130-137)
第9回	仏教社会福祉の支援(3) - 子育て支援 - (テキスト pp.74-79、140-148)
第10回	仏教社会福祉の支援(4) - 地域福祉 - (テキストpp.95-100)
第11回	仏教社会福祉の支援(5) - 看取りのケア - (テキストpp.89-94)
第12回	仏教社会福祉の支援(6) - 司法福祉 - (テキストpp.159-169)
第13回	仏教社会福祉の支援(7) - 障害者福祉 - (テキストpp.149-158)
第14回	仏教社会福祉の有効性(テキストpp.119 128、170-189)
第15回	まとめと評価

【教科書・参考書】

教科書：『仏教社会福祉入門』日本仏教社会福祉学会編（法蔵館）。辞書では、『仏教社会福祉辞典』仏教社会福祉学会編(法蔵館)が唯一である。参考書は、『吉田久一著作集』全7巻(川島書店)、『佛教福祉研究』水谷正行先生古希記念会編(思文閣出版)、『仏教福祉の思想と展開に関する研究』清水海隆著(大東出版社)、『佛教と福祉の研究』龍谷大学短期大学部編(永田文昌堂)、『仏教社会福祉論考』中垣昌実著(法蔵館)、仏教とビハール運動』田代俊孝著(法蔵館)、季刊『佛教』第51号 - 介護と佛教福祉 -、など多数あるので詳細はオリエンテーション時に紹介する。

【学生へのメッセージ】

大学コンソーシアムやまなし単位互換科目
2年次以降の受講を希望する。ある程度専門的な用語の理解ができなければ、授業の進展についてくるのが困難であると考えられる。ゆえに、法学、日本国憲法、仏教学入門、倫理学、日蓮学入門の各科目の単位取得後の履修が望ましい。そして欠席しないこと、特に福祉に携わる人の基本は他者の言葉を傾聴できるかどうかにある。

【オフィスアワー】

火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可 (ikegami(a)min.ac.jp)。

【実務経験】

宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員、身延町ふるさと創生委員

対象年度	学科・科目				分野	
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目	
講義名	[00509] デス・エデュケーション					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類 講 義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年		
担当者	村瀬 正光		ムラセ マサミツ		murase masamitsu	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
現代における生老病死の諸問題を解説し、様々な視点から「いのち」について考える力を養うことを目的とする。生殖医療・再生医療、終末期医療など生老病死の諸問題に関して概要を解説し、具体的な事例と一緒に議論する。医療現場における宗教・宗教家の意義を、実際の活動などを通して解説する。						
【授業修了時の達成課題（到達目標）】						
生老病死の諸問題を、自分の言葉で説明できるようになること。						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
授業前半は、スライド等を使用し授業を進める。授業後半は、受講生と一緒に議論し、理解を深める。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。						
【成績評価（方法・基準）】						
講義毎のレポート100%						
【授業計画（各回の授業内容）】						
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、自己紹介など）					
第2回	宗教とは（岸本英夫著『宗教学』を中心に）					
第3回	倫理学（自由主義の原則）					
第4回	生殖医療の現状 1					
第5回	生殖医療の現状 2					
第6回	終末期医療の現状 1					
第7回	終末期医療の現状 2					
第8回	臨死体験のワーク					
第9回	日蓮聖人の終末期					
第10回	精神疾患について（自死、自殺）					
第11回	グリーンワーク					
第12回	傾聴					
第13回	終活、事前指示					
第14回	医療現場における宗教者					
第15回	ビハラーについて（長岡西病院ビハラー病棟）					
【教科書・参考書】						
授業中に適宜、資料を配付する。参考図書：『宗教学』岸本英夫著・原書房、『生物と無生物のあいだ』福岡伸一著・講談社現代新書、『死ぬ瞬間』キューブラー・ロス著・中公文庫、『死とどう向き合うか』アルフォンス・デーケン著・NHK出版、『定本 ホスピス・緩和ケア』柏木哲夫著・青海社、『病院で死ぬということ』山崎章郎著・文春文庫						
【学生へのメッセージ】						
積極的に授業に参加することを望む。						
【オフィスアワー】						
授業の前後に教室にて対応します。						
【実務経験】						
腎臓内科医						

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[00510] 総合仏教				
期 間	通年（1回）	単 位 数	必修（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年	
担当者	学務委員長				
	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
「建学の精神」を具体的に理解し、体感するために設けられた授業である。そのために、毎年度行われる公開の学園講座を聴講し、その意味するところをレポートし、資質向上に供するのである。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
この授業では、身延山大学の建学の精神を学修し、その理解と受容を促すことを目的としている。そのため、学生諸君には、下記に示す法要参列や、学園講座を聴講して、その内容を把握していただき、身延山大学生として資質向上と、社会貢献できる人材となることを目的とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
単年度に行われる三大会と法難会への参列、学園講座と公開講演会の聴講を出席し、レポートを作成、提出することが課せられる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
三大会などは、その意義を事前によく学習すること（120分以上）。学園講座や公開講演会は事後の振り返り学習に120分以上、その後のレポート作成に120分以上が必要である。					
【成績評価（方法・基準）】					
単年度に行われる計5回の学園講座と公開講演会、本山法要への出席を、4年間で12回以上の聴講を義務とする。その都度、レポートを提出する。その評価がレポート1回につき10%、12回提出のレポート点数の合計を12で除した数値、いわゆる平均点（80%）に理解度の深化点（20%）を加えて評価する。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	上記の評価の方法及び基準に従うこと。				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
生きた授業である。演者は必ずしも教員ではないので、細分もらさずに聴講すること。 年度末に、その年度に何度（何回）出席したか各自で確認すること。					
【オフィスアワー】					
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。					
【実務経験】					
宗教法人智寂坊代表役員					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目		
講義名	[00512] 社会福祉概論 法定科目						
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解する。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
相談援助活動の背景について理解する。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
社会福祉と歴史的展開をふまえて理解できるように制度論にもふれながら、基礎的知識を学習する。個人ワーク、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。授業終了後、リアクションペーパーを提出し、授業内容について自らの考察を深める。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前課題～毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後課題～授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。							
【成績評価（方法・基準）】							
試験（50％）、レポート・リアクションペーパー（30％）、学習態度（20％）などを総合的に評価。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	現代社会における福祉制度と福祉政策 (1)福祉制度の概念と理念						
第2回	(2)福祉政策の概念と理念						
第3回	(3)福祉制度と福祉政策の関係						
第4回	(4)社会と生活のしくみ						
第5回	福祉制度の発達過程 (1)前近代社会と福祉						
第6回	(2)戦後の社会福祉						
第7回	(3)社会福祉基礎構造改革と社会福祉の変遷						
第8回	(4)地域包括ケアシステムと地域共生社会						
第9回	福祉政策におけるニーズと資源 (1)需要とニーズの概念						
第10回	(2)資源の概念						
第11回	(3)資源の概念						
第12回	(1)福祉政策と社会問題						
第13回	(2)福祉政策と社会問題						
第14回	(3)福祉政策の現代的課						
第15回	(4)福祉政策の課題と国際動向						
【教科書・参考書】							
中央法規出版 社会福祉士養成講座 「現代社会と福祉」第4版。授業中に適宜プリントを配布する。							
【学生へのメッセージ】							
社会福祉の中でもっとも基本となる科目。制度体系から臨床にいたる内容をしっかり学ぶことが大切になる。人々の生活や地域・社会について興味関心・問題意識を持っている学生の積極的参加を期待する。							
【オフィスアワー】							
火曜日 1 限目と水曜日 2 限目。e-mail : ttaka@min.ac.jp、メール等で予約してください。							
【実務経験】							
社会福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での実務							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目		
講義名	[00513] 社会福祉概論 法定科目						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
福祉政策の構成要素について理解する。福祉政策と関連政策の関係について理解する。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
相談援助活動と福祉政策の関係について理解する。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
社会福祉と歴史的展開をふまえて理解できるように制度論にもふれながら、基礎的知識を学習する。個人ワーク、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。授業終了後、リアクションペーパーを提出し、授業内容について自らの考察を深める。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前課題：毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後課題：授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。							
【成績評価（方法・基準）】							
試験（50％）、レポート・リアクションペーパー（30％）、学習態度（20％）を総合的に評価。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	福祉政策の構成要素 (1)福祉政策の論点						
第2回	(2)福祉政策の論点						
第3回	(3)福祉政策の論点						
第4回	福祉政策における政府の役割						
第5回	福祉政策における市場の役割						
第6回	福祉政策における国民の役割						
第7回	福祉供給部門 (1)政府部門、民間部門						
第8回	(2)ボランティア部門、インフォーマル部門、その他						
第9回	福祉供給過程						
第10回	福祉利用過程 (1)スティグマ、情報の非対称性						
第11回	(2)受給資格とシティズンシップ、その他						
第12回	福祉政策と関連政策 (1)福祉政策と教育政策						
第13回	(2)福祉政策と住宅政策						
第14回	(3)福祉政策と労働政策						
第15回	相談援助活動と福祉政策の関係 - 福祉供給の政策過程と実施過程						
【教科書・参考書】							
『新・社会福祉士養成講座1 現代社会と福祉（第4版）』福祉士養成講座編集委員会（編）中央法規出版 2015年。資料は適宜配布する。							
【学生へのメッセージ】							
社会福祉の中でもっとも基本となる科目。制度体系から臨床にいたる内容をしっかり学ぶことが大切になる。人々の生活や地域・社会について興味関心・問題意識を持っている学生の積極的参加を期待する。社会福祉概論 は社会福祉概論 の学びが基礎となる。社会福祉概論 を修了してから受講することが望ましい。							
【オフィスアワー】							
火曜日1限目と水曜日2限目。e-mail：ttaka@min.ac.jp、メール等で予約してください。							
【実務経験】							
社会福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での実務							

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目	専門基礎科目

講義名	[00531] 発達心理学
-----	---------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当者	手塚 知子	テヅカ トモコ	tezuka tomoko
-----	-------	---------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

対人援助では、他者を理解する枠組みや理論などの根拠が求められます。その一つの視点として、本授業では人の受精から老年期までの発達の過程について考え、発達の基礎理解から対人援助につなげることを目指します。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

発達心理学は、人の受精から老年期までの生涯にわたる個人的発達について研究する学問である。この授業では、生涯発達を受胎から死に至るまでと位置づけ、生涯にわたって発達し続ける人間について考えていくことを目的とする。この授業を受講することで、人は生涯どのように発達し、そのプロセスにおいて心理学的構造や機能の獲得、保持、変容、そして衰退がどのように起こるのか、理解することが可能である。

【授業方法（フィードバックの内容）】

基本的には指定した教科書に載っている重要な事項について解説し、その内容について受講生が理解し、考えることができるような授業を行う。必要に応じて、ディスカッションも行う予定である。また、教科書に載っていないような日常の出来事や事例、映像資料等を紹介し、用語を身近なものとして理解できるようにする。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学習では、教科書を読み、基本的な用語の理解に努めること。事後学習では、学んだ内容についてプリントやノートにまとめ、課された課題を行ってくること。

【成績評価（方法・基準）】

授業内容確認テスト（40%）、小テスト（30%：10%×3回）、授業への取り組み（20%）、課題への取り組み（10%）により総合的に評価する。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	オリエンテーション / 発達するとはどういうことか・生涯発達の考え方
第2回	生命の芽生えから誕生まで
第3回	赤ちゃんがとらえる世界
第4回	乳児のコミュニケーションと人間関係の発達
第5回	愛着理論 愛着関係の成立と個人差 / 小テスト1
第6回	ことば遊びの発達
第7回	かかわりの中で育まれる自己
第8回	仲間の中での育ち
第9回	学童期の発達 学校での学び / 小テスト2
第10回	思春期・青年期の発達
第11回	大人になるために - 親になること働くこと
第12回	かかわりの中で成熟する
第13回	老いることと発達 人生を振り返る
第14回	発達におけるつまずきへの理解 / 小テスト3
第15回	まとめ：授業の振り返りとディスカッション

【教科書・参考書】

教科書：『問いからはじめる発達心理学 - 生涯にわたる育ちの科学』坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子著（有斐閣ストゥディア）2014年、参考書：『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』岡本依子・菅野幸恵・塚田城みちる著（新曜社）2004年、『実践・発達心理学第2版』青木紀久代編（みらい）2017年、そのほか、適宜授業中に紹介する。

【学生へのメッセージ】

発達心理学は生まれてから死に至るまでの人間の生涯発達を学ぶ学問です。他者理解のみならず、自己理解にも役立つ実践的な科目です。将来、大学時代に学んでおいてよかったと思えるように学習して欲しいと思っています。もちろん欠席や遅刻は厳禁です。

【オフィスアワー】

火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25

【実務経験】

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目			専門基礎科目
講義名	[00532] 仏教学概論			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	--
担当者	望月 海慧	モチヅキ カイエ	mochizuki kaie	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
この授業では、仏教学の基礎的知識を修得するために基本的な仏教用語の意味を学びます。仏教学の伝統において教科書として用いられてきた『俱舎論』に基づいて仏教教義の基本を解説します。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
本講義では、仏教思想形成する基礎知識を理解することを目的とする。これらの用語を理解することにより、仏教学のさらなる知識を習得できるようになるであろう。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
古来より仏教学の教科書として用いられてきた『阿毘達磨俱舎論』を用いて講義を行う。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
学力確認テスト70%、授業への取り組み30%で評価を行う。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	オリエンテーション			
第2回	小乗と大乘について			
第3回	アビダルマについて			
第4回	『俱舎論』とヴァスバンドゥ			
第5回	存在の基盤について			
第6回	認識について			
第7回	存在について			
第8回	世界の形成について			
第9回	行為について			
第10回	煩惱について			
第11回	修行階梯について			
第12回	智について			
第13回	禅定について			
第14回	我について			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
テキスト：世親（ヴァスバンドゥ）著『阿毘達磨俱舎論』（大正新修大蔵経、No.1558）。				
参考書：桜部建『俱舎論』（大蔵出版）1981年、桜部建『存在の分析』（角川文庫）1996年、青原令知編『唯識 絶ゆることなき法の流れ』（自分照出版）2015年。				
【学生へのメッセージ】				
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 『俱舎論』は、奈良時代より仏教学の教科書として用いられているテキストであるので、僧侶としての基本的な学習内容を学んでもらいたい。				
【オフィスアワー】				
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限				
【実務経験】				
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目			専門基礎科目
講義名	[00537] 法華経概論			
期 間	前期（15回）	単位数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	庵谷 行亨	オオタニ ギョウコウ	otani gyoko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
法華経の概要について学修します。成立、原典、構成、思想内容、仏教における位置づけなど、法華経の基本的事項について概説します。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
本授業では、法華経の概要を総合的に理解することにより、法華経の教えをとおして大乘仏教の基本的思想や日本仏教の原点および天台大師・伝教大師・日蓮聖人の法華仏教の内容を把握し、自発的に考察を深め、自身の考えを発表する力を養うことを目標とします。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
法華経の思想をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表(プレゼンテーション)し、全員で意見交換(ディスカッション)をおこないます。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。				
【成績評価（方法・基準）】				
学力確認テスト（80％）、課題発表などの授業への取り組み姿勢(20％)を基準として総合的に評価します。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	法華経の成立			
第2回	法華経の原典			
第3回	法華経の構成			
第4回	法華経説法の場所			
第5回	法華経説法の開始			
第6回	日本仏教における法華経の位置づけ			
第7回	法華経迹門の思想			
第8回	法華経本門の思想			
第9回	法華経の開会思想			
第10回	法華経の題号喩			
第11回	法華経品中の譬喩			
第12回	法華経の菩薩思想			
第13回	法華経の娑婆即寂光思想			
第14回	法華経の世出不二思想			
第15回	法華経学修のまとめ			
【教科書・参考書】				
教科書：『誰でもわかる法華経』庵谷行亨著（大法輪閣）2000年。参考書：『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年、『法華経・仏典講座7』田村芳朗・藤井教公著（大蔵出版）1992年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。				
【学生へのメッセージ】				
講義内容の関係から後期の「法華経概論」と併せて受講することを望みます。				
【オフィスアワー】				
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。				
【実務経験】				
宗教法人宗長寺代表役員				

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目			専門基礎科目	
講義名	[00538] 法華経概論				
期間	後期 (15回)	単位数	選択 (2)		種類 講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	庵谷 行亨		オオタニ ギョウコウ		otani gyoko
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
法華経各品の概要について学修します。とくに方便品第二・如来寿量品第十六・如来神力品第二十一などの主要品をはじめ、虚空会の思想や起顕竟の法門など、法華経各品の基本的事項について概説します。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】					
本授業では、法華経各品の概要を総合的に理解することにより、法華経全体の思想内容を印度・中国・日本の三国仏教を踏まえて把握し、主体的に考察を深め、自身の意見を発表する力を養うことを目標とします。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
法華経各品の思想をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表(プレゼンテーション)し、全員で意見交換(ディスカッション)をおこないます。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。					
【成績評価 (方法・基準)】					
学力確認テスト (80%)、課題発表などの授業への取り組み姿勢 (20%) を基準として総合的に評価します。					
【授業計画 (各回の授業内容)】					
第1回	序品第一・方便品第二				
第2回	譬喩品第三・信解品第四				
第3回	薬草喩品第五・授記品第六				
第4回	化城喩品第七・五百弟子受記品第八				
第5回	授学無学人記品第九・法師品第十				
第6回	見宝塔品第十一・提婆達多品第十二				
第7回	勸持品第十三・安樂行品第十四				
第8回	従地涌出品第十五・如来寿量品第十六				
第9回	分別功德品第十七・隨喜功德品第十八				
第10回	法師功德品第十九・常不輕菩薩品第二十				
第11回	如来神力品第二十一・囑累品第二十二				
第12回	薬王菩薩本事品第二十三・妙音菩薩品第二十四				
第13回	觀世音菩薩普門品第二十五・陀羅尼品第二十六				
第14回	妙莊嚴王本事品第二十七・普賢菩薩勸発品第二十八				
第15回	法華経全体のまとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『誰でもわかる法華経』庵谷行亨著 (大法輪閣) 2000年。参考書：『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編 (平楽寺書店) 1924年、『法華経・仏典講座 7』田村芳朗・藤井教公著 (大蔵出版) 1992年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
講義内容の関係から前期の「法華経概論」と併せて受講することを望みます。					
【オフィスアワー】					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
宗教法人宗長寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目		専門基礎科目		
講義名	[00539] 宗学概論				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2 年	3 年	--	
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
宗学とは何か、宗学を学ぶ意義を確認し、宗学の基本事項となる五義や三大秘法などの教義を概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
宗学とは何であるか、その意義を認識し、宗学の内容を体系的に理解し自分の言葉で説明することができる力を身につけ、自らが主体的に実践していく素地を築くことを、本授業の目標とします。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
宗学とは何であるのか、なぜ学ぶのかということをしっかり抑え、その上で、宗祖の教えについて講義を行います。授業の中でリアクションペーパーを用いて毎回自分の意見等を書いてもらうことと、口頭で質問をし、受講生が自らの考えを発表、ディスカッションをおこなっていきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。					
【成績評価（方法・基準）】					
試験(80%)、平常点(20%)。平常点はリアクションペーパーの内容、授業内における質問等によって評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	宗学概論の意義				
第2回	宗祖 その1				
第3回	宗祖 その2				
第4回	体系（相承）				
第5回	五義 その1				
第6回	五義 その2				
第7回	三大秘法 その1				
第8回	三大秘法 その2				
第9回	信行				
第10回	成仏				
第11回	霊山往詣				
第12回	摂折				
第13回	祈祷				
第14回	僧俗				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：なし。参考書：『宗義大綱読本』日蓮宗宗務院教務部編(日蓮宗新聞社)1989年、『日蓮聖人遺文辞典 教学篇』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺)2003年、『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会編(東京堂出版)1981年等。その他、授業の中で紹介していきます。					
【学生へのメッセージ】					
「日蓮学入門」を受講し、しっかり理解した上で併せて受講することを望みます。自分なりにまとめてわかりやすいノートを作成し、授業内で理解できない事柄は必ず図書館などで納得できるまで調べて下さい。					
【オフィスアワー】					
火曜日 1 時限目と水曜日 2 時限目					
【実務経験】					
日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程	
講義名	[05102] 社会福祉体験実習研究【平成30年度生まで】			
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	--	--
担当者	建守 善之		タテモリ ヨシユキ	tatemori yoshiyuki
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
社会福祉とはどのような学問なのか、「福祉」をテーマに制度と支援技術などを学び、これからの福祉問題にも触れ専門知識と援助技術を取得する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
社会福祉体験実習に臨む際の基本的な知識・技術及び留意事項を学ぶ。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
講義、実技演習、グループワーク				
【授業外学修の方法（時間数）】				
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、毎回の授業時に指定された文献を必ず読んでくること。事後の学習では、授業中に提示した専門用語の復習を行うこと				
【成績評価（方法・基準）】				
毎回のリアクションペーパー（10%）、授業で出される課題（10%）、レポート（30%）、学力確認テスト（50%）				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	オリエンテーション			
第2回	社会福祉、障害児教育の基本理念			
第3回	視覚障害、聴覚障害、言語障害			
第4回	運動障害、知的障害、病弱・虚弱			
第5回	ダウン症、てんかん、その他の障害			
第6回	盲・聾・支援学校の教育			
第7回	社会福祉施設の定義、種類			
第8回	福祉サービスの種類			
第9回	高齢者にかかわる施設			
第10回	グループワーク			
第11回	児童福祉・障害児にかかわる施設			
第12回	グループワーク			
第13回	介護実技			
第14回	介護実技			
第15回	総括・実習事前説明			
【教科書・参考書】				
授業中に指定します。				
【学生へのメッセージ】				
社会福祉体験実習につながる大切な講義です。集中して受講してください。				
【オフィスアワー】				
火曜日 14:00から17:00、水曜日 14:00から15:30				
【実務経験】				
社会福祉体験実習に向けて、模擬授業を行い、社会人として必要な知識を学ぶ。				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05132] 教職論				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ	tanuma akira	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
教師の仕事とは何か、教員養成制度、教師の専門性と職務内容、子ども、同僚、保護者、地域との関係などについて、概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
この授業では、まず教職の意義について学び、教師の職務、教職の専門性、同僚との関係、最後に現在教師が直面する実践上の課題を検討する。教師の仕事、現代の教師が直面する課題を理解することを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書は『新しい時代の教職入門』を使用するが、適宜 授業資料を配布し参考文献を紹介する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修120分：指示されたテキストをあらかじめ読んでおく。事後学修120分：テキストや資料を読み直し、ノートをまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション 教職とは何か				
第2回	教師の日常世界				
第3回	子どもをつかむことの意義				
第4回	授業をつくる				
第5回	授業から学ぶ				
第6回	カリキュラムをつくる				
第7回	生活指導の課題				
第8回	戦後教育史のなかの教師（1）				
第9回	同上（2）				
第10回	教師のライフステージ				
第11回	学校づくり				
第12回	生徒とともに学校をつくる				
第13回	教師の懲戒権と体罰				
第14回	教職の専門性				
第15回	教育改革と教師 まとめ				
【教科書・参考書】					
参考書 無着成恭編『山びこ学校』（岩波文庫）、今橋盛勝・牧証名編『教師の懲戒と体罰』エイデル研究所、教育科学研究会 学校部会編『子ども観の転換と学校づくり』（国土社）、尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』（岩波新書）、秋田喜代美・佐藤学編『新しい時代の教職入門』（有斐閣）、柴田義松・山崎準二編『教職入門』（学文社）					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05133] 教育課程論				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
教育課程とは何か、その原理、歴史の変遷、現代の学校が直面する課題について、概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
教育課程とは、学校において教師集団が行う教育活動の計画であり、子どもの人格形成について学校が描く設計図である。授業では、戦後の教育課程の変化を理論的歴史的に検討し、その後個別の課題について学んでいく。教育課程の基礎理論と変遷を学び、現在直面する課題について理解することを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書は最初の授業時に指示する。また適宜資料を配布し参考文献を紹介する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修120分：指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修120分：テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポートを含む学力確認テスト70%、授業への取組の姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション。教育課程とは何か				
第2回	教育課程、学習指導要領の法令上の位置づけ				
第3回	学習指導要領の変遷（1）1947年版から1958年版				
第4回	学習指導要領の変遷（2）1968年版から1989年版				
第5回	学習指導要領の変遷（3）1998年版から2008年版				
第6回	現行学習指導要領の特徴				
第7回	教育課程の構成要件				
第8回	教育課程の編成原理				
第9回	各教科・領域における横断的指導の理論				
第10回	各教科・領域における横断的指導の実際				
第11回	カリキュラムマネジメントの意義と実際				
第12回	カリキュラム評価の基本的考え方				
第13回	教育課程の現代的課題（1）市民性の教育				
第14回	教育課程の現代的課題（2）環境教育				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書 田中耕治ほか編著『新しい時代の教育課程第4版』（有斐閣 2018年）を使用する。このほかに適宜資料を配布する。文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版を参考資料として使用する。					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目			教職課程
講義名	[05134] 特別活動の研究【平成30年度生まで】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
特別教育活動とは何か、その理論、制度上の位置づけと変遷、生徒の自治能力を育む実践的課題について、概説します。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
学習指導要領では、中学・高校の教育課程を構成する教育活動のうち、教科指導、道徳、総合的学習以外の領域を特別活動と呼んでいる。授業では、子どもの自律性と自治的能力をどう育成するかということに焦点を当て、これまでの議論を整理しながら、実践的課題について検討していく。特別活動の歴史的変遷と現代直面する課題と主要な実践について理解することを目標とする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学習120分：指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学習120分：テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。				
【成績評価（方法・基準）】				
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	オリエンテーション。現代における特別活動の意義			
第2回	日本教育史における特別活動の歩み（1）戦前			
第3回	日本教育史における特別活動の歩み（2）戦後			
第4回	学級活動と学級集団づくり			
第5回	生徒会活動と自治能力の育成			
第6回	クラブ活動			
第7回	学校行事の意義とその内容（1）入学式、卒業式			
第8回	学校行事の意義とその内容（2）修学旅行			
第9回	学校行事の意義とその内容（3）文化祭			
第10回	学校行事の意義とその内容（4）体育祭			
第11回	長野・辰野高校学校三者会議の実践			
第12回	長野・軽井沢高校「軽高会議」の実践			
第13回	修学旅行の企画づくり（1）			
第14回	修学旅行の企画づくり（2）			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
竹内常一『おとなが子どもと出会うとき、子どもが世界を立ちあげるとき』（桜井書店）、浦和商業高校定時制四者協議会編『この学校がオレを変えた』（ふきのとう書房）、宮下与兵衛『学校を変える生徒たち』（かもがわ出版）、宮下聡『中学生の失敗する権利、責任をとる体験』（ふきのとう書房）				
【学生へのメッセージ】				
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。				
【オフィスアワー】				
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。				
【実務経験】				
なし				

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目	教職課程

講義名	[05135] 道德教育の研究【平成30年度生まで】
-----	----------------------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当者	櫻井 歓	サクライ カン	sakurai kan
-----	------	---------	-------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

道德教育とは何か。人が道徳的に行為するとはどのようなことか。本科目ではこうした原理的な問いを大切にしながら道德教育への理解を深められるよう、その理論や歴史を概説するとともに、「学習指導要領」や「道德科」教材の研究、受講生による模擬授業とその検討などを行う。キーワード：道德教育、学習指導要領、模擬授業

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

上記のような授業内容を学習することにより、道德教育の目標や内容、指導計画などを理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業などを通して、実践的な指導力を身に付けることを到達目標とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

担当教員による講義と、アクティブ・ラーニングの一環としての小グループによる意見交換、模擬授業などを有機的に組み合わせ、効果的に授業を行う。授業を対話的に展開するため、各回授業時に小レポートを書いてもらい、次の回で何人分かを紹介し、コメントする。

【授業外学修の方法（時間数）】

本科目では、授業への参加は言うまでもなく、授業外での準備学習がこれに劣らず重要である。各回の授業の復習のほか、テキストや配布プリントの予習、さらに学習指導案の作成、模擬授業の準備などについては、受講者各自による授業外での主体的な取り組みが求められる（各回120分以上の事前・事後学習を行うこと）。

【成績評価（方法・基準）】

学習指導案・模擬授業等の課題の達成度（40％）と学力確認テスト（60％）により評価する。学力確認テストでは、道德教育に関する基本的知識を獲得し、的確な言葉で道德教育について論述することができたかを評価基準とする。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	開講にあたって（ガイダンス、導入の「道德」クイズ）
第2回	道德をどう捉えるか 道德の概念
第3回	道德性の発達と教育をめぐる理論
第4回	道德教育の歴史（1）西洋
第5回	道德教育の歴史（2）日本
第6回	現代社会の道德教育課題（いじめ・情報モラルなど）【ICT機器の活用】
第7回	宗教教育と道德教育
第8回	「学習指導要領」にみる道德教育【グループワーク】
第9回	学校の教育活動全体を通じての道德教育
第10回	「特別の教科 道德」（道德科）の学習指導案
第11回	道德科の学習評価
第12回	道德教育教材の研究
第13回	道德教育実践の研究【映像教材の活用】
第14回	模擬授業の実施とふり返り【プレゼンテーション】
第15回	学力確認テストと授業のまとめ

【教科書・参考書】

教科書：『道德教育の批判と創造』藤田昌士・奥平康照監修（エイデル研究所）2019年。参考書：『道德教育 その歴史・現状・課題』藤田昌士著（エイデル研究所）1985年、『道德教育の理論と方法』羽田積男・関川悦雄編（弘文堂）2016年、『中学校学習指導要領』（文部科学省）2017年。

【学生へのメッセージ】

受講生と担当講師、また受講生相互間での積極的な意見交換を通じて、道德教育への理解を深められるような授業としたい。学生諸君の意欲的な参加に期待する。なお、受講希望者は初回の授業より出席し、受講の意思表示を行うこと。

【オフィスアワー】

各回授業後に教室にて相談などを受け付ける。

【実務経験】

なし

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目	教職課程

講義名	[05136] 教育方法論【平成30年度生まで】		
-----	--------------------------	--	--

期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当者	成田 雅博	ナリタ マサヒロ	narita masahiro
-----	-------	----------	-----------------

【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】

小・中・高校におけるデジタル版視聴覚教育ともいえる、コンピューターやネットワークを活用したICTを活用した授業を、設計・実施・評価できる実践力を育成します。学習指導要領で強調されている教育方法や、すぐれた教材、教育実践事例を検討、分析してもらいます。キーワード：ICT活用・教育方法・授業研究

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

カリキュラム編成や教材研究、授業研究の枠組みを理解し、教育実践改善の具体的方法を修得します。ICT・視聴覚メディアを活用した教育方法、教材の開発・評価の手法を理解することにより、授業力を修得できます。また、学習指導案の作成・実施・評価やカリキュラム・マネジメントの方法についても修得します。

【授業方法（フィードバックの内容）】

授業記録のビデオ、コンピューターなどによる演示を視聴したり、授業時に配布・紹介した教育実践記録を熟読したりしたあと、そとで実践やカリキュラムについて考察し、評価できる点と改善について議論します。その際、インターネットを活用して、教材や実践事例の情報を集めたり、成果を共有したりします。

【授業外学修の方法（時間数）】

教材や教育実践事例等について、事前配布資料を分析、考察し小レポートを作成します。事後には、他の学生の意見や関連情報をさらに探究します。合計すると、1回の授業について4時間程度の授業外学修が必要です。

【成績評価（方法・基準）】

(1) レポート(30%：論理性・独創性・21世紀型学力の理解)、(2) 授業中・事前・事後小レポート(40%：上記項目1と同じ)、(3) 授業中の質問・建設的な意見表明・議論への貢献(30%)

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	教材「数あてゲーム」「ジュナイユの計算棒」を例に、教育内容と教材の関係を理解する
第2回	教育内容と教材の関係、カリキュラム（教育課程）、学習指導要領との関係、授業の3要素の理解、教育方法に関する理論と実際
第3回	21世紀型学力の概観と、学力育成の方法の探究
第4回	教育方法としての仮説実験授業・授業書
第5回	国際理解教育、異文化理解教育、多文化教育と、それらの典型的な教材である貿易ゲーム
第6回	教育方法としてのゲーム。シリアスゲーム・ゲーミング・ゲーミフィケーション
第7回	「教育の情報化の手引き」を講読して、ICTと教育の係わりに関して分析・発表
第8回	情報教育の目標・内容・方法。情報活用能力の育成と学校におけるICT環境整備
第9回	情報活用の実践力分野・情報の科学的な理解分野・情報社会に参画する態度分野の教材研究
第10回	情報モラル教育の教材・教育方法研究：特にケータイ・スマートフォン等の小中高生への普及にともなう諸問題について。
第11回	電子黒板・タブレット・電子教科書等のデジタル教材等ICTを活用した教育方法に関する探究（ICTを活用した探究）
第12回	学習指導案の役割の理解・すぐれた授業の学習指導案の検討・学習指導案と授業実践の関係
第13回	学習指導案、教科書等を参照して、学習指導案を作成・相互評価し、その結果を発表・質疑応答する
第14回	学習評価の理論・方法の理解。授業改善の方法
第15回	学校図書館の役割。これまでの授業のふりかえりとまとめ

【教科書・参考書】

教科書：なし。参考書：授業の研究 教師の学習. 秋田喜代美・キャサリン ルイス. 明石書店. 2008年。日本の授業研究 下巻 授業研究の方法と形態. 日本教育方法学会. 学文社. 2009年。授業研究と学習過程. 秋田喜代美. 放送大学教育振興会. 2010年。授業研究と教育学. 教育学選書 第6巻. 水越敏行他. ミネルヴァ書房. 2012年。教育の方法と技術. 平沢茂 編著. 図書文化社. 2014年。幼稚園教育要領, 小学校学習指導要領, 中学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領, 特別支援学校学習指導要領。

【学生へのメッセージ】

これまでに小・中・高校で受けてきた授業の良い点, 改善すべき点をあらためて振り返り、事前・授業中・事後に提示されるすぐれた授業と比較しながら、自分が授業を設計・実施・評価する立場で熟考してほしい。

【オフィスアワー】

授業日の、昼休み及び開講日のすべての授業の終了後に、教室にて受け付けます。

【実務経験】

留萌高等学校・釧路西高等学校教員（数学・情報処理）5年。教育方法やICT活用に関し、具体的にイメージできる授業にします。

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程	
講義名	[05138] 社会福祉体験実習【平成30年度生まで】			
期間	通年（1回）	単位数	必修（1）	種類 実習
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	建守 善之	タテモリ ヨシユキ		tatemori yoshiyuki
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
社会福祉の制度はどのような学問か、福祉の制度を中心に学習し介護技術等の支援方法を学び専門知識と援助技術を取得する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
高齢者福祉施設や、支援学校での実習を通して社会福祉及び介護等の体験を行う。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
実習内容の詳細は各実習施設及び支援学校の実習指導者の指示に従うこと。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、毎回の授業時に指定された文献を必ず読んでくること。事後の学習では、授業中に提示した専門用語の復習を行うこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
全日程出席の上、実習先の指導者評価50%、実習記録50% 実習前に授業・前日の実習内容を必ず復習すること、実習後は内容の習得が得られるよう反復すること。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	社会教育主事及び社会福祉主事資格取得の場合：高齢者福祉施設実習 5日間 教育職員免許状取得の場合：高齢者福祉施設実習 5日間・支援学校 2日間			
【教科書・参考書】				
必要に応じて指示する。				
【学生へのメッセージ】				
実習は一瞬の不注意が大きな怪我や事故につながる恐れがあります。細心の注意を払ってください。				
【オフィスアワー】				
火曜日 14：00から17：00、水曜日 14：00から15：30				
【実務経験】				
教育実習と高齢者施設実習に向けたオリエンテーションや模擬授業を行い、専門知識を学ぶ。				

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05201] 社会教育計画 【平成31年度生まで】						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
社会教育の催しを実際に計画するに際し、考慮すべき事柄や方法論について概説します。特にコミュニケーション心理学に基づく集団思考法やワークショップの技法について実践的に検討します。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
我が国における社会教育の経緯、方法、内容について学びます。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	オリエンテーション (授業の概要説明)						
第2回	生涯学習推進行政と社会教育行政						
第3回	社会教育の意義と内容						
第4回	社会教育の方法・形態						
第5回	公民館とは						
第6回	図書館とは						
第7回	博物館とは						
第8回	コミュニケーション・スキル						
第9回	ワークショップの技法						
第10回	集団思考法、組織心理学						
第11回	コーディネーター、ファシリテーター、アドミニストレーター、インタープリター、アドバイザー、アセッサー						
第12回	プランニング						
第13回	プレゼンテーション						
第14回	ワークショップの計画						
第15回	ワークショップの実際						
【教科書・参考書】							
講義の中で適宜紹介します。							
【学生へのメッセージ】							
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。							
【オフィスアワー】							
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpをお願いします。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05202] 社会教育計画 【平成31年度生まで】						
期 間	後期（15回）		単位数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
社会教育の催しを実際に計画するに際し、考慮すべき事柄や方法論について概説します。特にコミュニケーション心理学に基づく集団思考法やワークショップの技法について実践的に検討します。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
多様な主体と連携・協働を図りながら、生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得し、発表します。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業中の小テストや課題など60%、学期末の試験40%							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	社会教育の方法						
第2回	社会教育と学校教育の関係						
第3回	アメリカとヨーロッパと日本の社会教育財政事情						
第4回	学習成果の活用方法・評価方法						
第5回	教育普及活動						
第6回	アドミニストレーター、インタープリター、ファシリテータ						
第7回	ワークシートの要点						
第8回	NPOの役割 アソシアシオン法						
第9回	市民と行政のパートナーシップ、PFI、PPP						
第10回	アウトリーチの歴史と方法						
第11回	ハンズ・オンとプリーズタッチ						
第12回	リピーターへの視点						
第13回	ボランティアの養成						
第14回	指定管理者制度						
第15回	総括						
【教科書・参考書】							
講義の中で適宜紹介します。							
【学生へのメッセージ】							
社会教育計画1を履修済みであることが望ましい。							
【オフィスアワー】							
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpにお願いします。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05203] 社会教育課題研究 【平成31年度生まで / 05211令和2年度生より】				
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）	
種類	講義				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
生涯学習の広がりの中での社会教育活動の歴史と現状を、主として地域、自治体における施設・事業・団体・グループとの係わりで検討していく。場合によっては、テーマを絞って共同学習することもある。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて、学習し発表・討論する力を身につけることを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修 120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。 事後学修 120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション。社会教育の意義				
第2回	成人の学習の国際的展開				
第3回	日本における社会教育活動の展開（1）				
第4回	日本における社会教育活動の展開（2）				
第5回	生涯教育と生涯学習				
第6回	地域づくり・まちづくり実践から（1）東京・谷中				
第7回	地域づくり・まちづくり実践から（2）大分・湯布院				
第8回	地域づくり・まちづくり実践から（3）沖縄・伊江島				
第9回	地域づくり・まちづくり実践から（4）福島・三春				
第10回	地域づくり・まちづくり実践から（5）新潟・聖籠				
第11回	地域づくり・まちづくり実践から（6）東京・国立				
第12回	地域づくり・まちづくり実践から（7）合併しない町・村サミット				
第13回	地域づくり・まちづくり実践から（8）沖縄・名護				
第14回	地域づくり・まちづくり実践から（9）森は海の恋人				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
参考書 佐藤一子 『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男 『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男 『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05204] 社会教育課題研究 【平成31年度生まで / 05212令和2年度生より】				
期 間	後期（15回）		単位数	必修（2）	
種類	講義				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
「社会教育課題研究」と連続している。社会教育に関する今日的課題を取り上げ、実際の取り組みを学習し検討することを目的とする。参加者の課題意識が一致すれば、テーマを絞って共同学習することもある。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて学習し、発表・討論する力を身につけることを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。 事後学修120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポートを含む期末試験70%、授業への取り組み姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	現代青年の文化活動（1）				
第2回	現代青年の文化活動（2）				
第3回	平和・軍縮学習と平和文化の創造（1）				
第4回	平和・軍縮学習と平和文化の創造（2）				
第5回	子育て・文化協同（1）				
第6回	子育て・文化協同（2）				
第7回	環境問題に取り組む市民（1）				
第8回	環境問題に取り組む市民（2）				
第9回	人権学習（1）				
第10回	人権学習（2）				
第11回	ボランティア活動（1）				
第12回	ボランティア活動（2）				
第13回	青年の自立支援（1）				
第14回	青年の自立支援（2）				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
参考書 佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）、金子郁容『ボランティア』（岩波新書）、井上ひさし・樋口陽一『「日本国憲法」を読み直す』（講談社）、深山正光『国際教育の研究』桐書房					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05207] 社会教育経営論 【令和2年度生より】						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
社会教育計画の計画体系と評価体系、学習展開計画案、各地の具体的な推進計画について解説する。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得する。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	対話型討論：「社会教育とは何を指すのか」						
第2回	教育基本法第13条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）						
第3回	社会教育計画の計画体系と評価体系						
第4回	社会教育計画の具体的な学習展開計画案						
第5回	社会教育計画の実例の検討						
第6回	社会教育関連施設のネットワーク化						
第7回	人的ネットワークの活用（NPO、地縁団体、テーマ別グループ、人材バンク）						
第8回	コーディネーターによる学習支援（橋渡し、循環、情報提供、コーチングなど）						
第9回	社会教育調査とデータの活用						
第10回	学習成果を発表する場づくり						
第11回	子ども読書活動推進計画						
第12回	芸術文化振興に関する計画						
第13回	スポーツ振興に関する計画						
第14回	家庭の教育力向上の支援、親力向上推進計画						
第15回	総括 振り返りとシェアリング						
【教科書・参考書】							
講義の中で適宜紹介します。							
【学生へのメッセージ】							
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。							
【オフィスアワー】							
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpにお願いします。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05208] 社会教育経営論 【令和2年度生より】				
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていく方法論や実際の具体的な事例について解説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
多様な主体と連携・協働を図りながら、生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得し、発表します。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	まちづくり・地域活性化策としての社会教育				
第2回	社会教育と住民参加				
第3回	社会教育施設と専門職員・コーディネーターが果たす役割				
第4回	地域フィールドワークによる学習課題の抽出				
第5回	学習成果の公開と評価				
第6回	ヨコのネットワークとタテのネットワーク				
第7回	青少年の居場所づくりと青少年リーダーの育成				
第8回	障害者とともに学ぶ仕組み				
第9回	事例の検討：静岡県富士宮市、長野県飯田市				
第10回	事例の検討：徳島県上勝町、長野県下條村				
第11回	事例の検討：滋賀県長浜市、石川県輪島市				
第12回	事例の検討：長野県飯山市、京都府美山町				
第13回	事例の検討：新潟県村上市、大分県豊後高田市				
第14回	成果発表				
第15回	総括 振り返りとシェアリング				
【教科書・参考書】					
講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。社会教育経営論1を履修済みであることが望ましい。					
【オフィスアワー】					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpにお願いします。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05209] 社会教育課題研究【令和2年度生より】				
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）	
種 類	講義				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会教育主事としての職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることをねらいとします。この授業では、地域住民が主体的に学ぶ社会教育活動の課題について、主として地域づくり、まちづくりに関する実践例を取り上げて、相互に検討していきたい。授業の性格上、参加者が主体的にテーマを決めて参加してほしい。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
社会教育制度及びその理念、社会教育施設の役割、職員の任務を理解する。社会教育活動が直面する所課題について、理解する。参加者が主体的にテーマを決め、学習し発表・討論する力を身につける。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義・演習の併用方式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。学生諸君にも報告をお願いする。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修 120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修 120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	ガイダンス				
第2回	社会教育の理念と制度				
第3回	ユネスコ学習権宣言とその展開				
第4回	戦後日本社会の変容と社会教育の課題				
第5回	地域開発、公害問題				
第6回	森林保護と漁業の発展				
第7回	原子力発電をめぐる諸問題				
第8回	少子高齢化、過疎化とまちづくり				
第9回	日本社会の格差と貧困				
第10回	子ども食堂				
第11回	義務教育費の無償化とまちづくり				
第12回	性的マイノリティの人権				
第13回	地域づくり実地調査...柴又、谷中、根津、千駄木				
第14回	社会的ひきこもり者支援				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
参考書 佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05210] 社会教育演習【令和2年度生より】						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
社会教育主事としての職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることをねらいとします。地域住民が主体的に学ぶ拠点である社会教育施設の具体的役割について、実践的に学ぶことを目的とします。身延町をはじめ山梨、長野、東京各地の公民館活動、住民が企画する学びの実態について具体的事例を通して学びます。必要に応じて、文献研究、実地調査も行います。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
地域における人々の学びの拠点である社会教育施設の機能、学習支援者としての職員の枠割を理解する。 学習講座企画と省察を通して、社会教育支援者としての実践的力をつける。 グループ活動を通して、仲間と共に探求、実践し、地域社会を形成する力をつける。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
演習形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。学生諸君に発表をお願いする。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学修120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。							
【成績評価（方法・基準）】							
発表を含む期末レポート70%、授業への取り組み姿勢30%							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	ガイダンス						
第2回	学びの拠点としての社会教育施設						
第3回	学習支援者としての社会教育主事の専門性						
第4回	身延町の社会教育施設（公民館）						
第5回	身延町の社会教育施設(中富和紙の里)						
第6回	身延町の社会教育施設（金山博物館）						
第7回	参加者からの講座企画案の検討（1）						
第8回	参加者からの講座企画案の検討（2）						
第9回	環境問題の講座企画事例						
第10回	平和教育の講座企画事例						
第11回	社会の格差と貧困についての講座企画事例						
第12回	家族支援についての講座企画事例						
第13回	文化活動についての講座企画事例						
第14回	地域の過疎化対策についての講座企画事例						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
参考書 佐藤一子 『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男 『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男 『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）、金子郁容 『ボランティア』（岩波新書）、井上ひさし・樋口陽一 『「日本国憲法」を読み直す』（講談社）、深山正光 『国際教育の研究』 桐書房							
【学生へのメッセージ】							
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。							
【オフィスアワー】							
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05231] 社会教育主事実習【平成31年度生まで】						
期 間	通年（1回）		単 位 数	必修（2）		種 類	実習
対象学年	--	2年	3年	--			
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
社会教育主事の実務実践及び諸問題を学ぶために、身延町役場及び身延町教育委員会において、社会教育主事として業務の一部を実習又は補助参加をおこないます。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
身延町役場及び身延町教育委員会においての実習 1週間。身延町役場及び身延町教育委員会の主催する行事の補助 1週間。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
実習内容に関しては、身延町役場及び教育委員会に一任します。実施期間は10月の下旬となっています。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。 事前学習は、指導担当職員から指示された課題を必ず行っておくこと。 事後学習は、一日を振り返りながら実習日誌をまとめ、指導担当職員の点検を受けること。							
【成績評価（方法・基準）】							
実習先の評価と実習記録の記入内容とを総合的に勘案して行います。。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	実習						
【教科書・参考書】							
実習なのでテキストや参考文献は掲載しません。							
【学生へのメッセージ】							
実習中は社会教育主事として業務を実施しますので、社会人としての自覚をもって実習に臨んでください。また、指導担当者の指導及び留意事項は必ず守ってください。なお、実習中の遅刻・早退及び欠席は認められません。学務課が主催する諸資格ガイダンス及び掲示板等で指示されるガイダンスには、必ず参加してください。							
【オフィスアワー】							
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目	社会教育主事資格取得課程

講義名	[05232] 視聴覚教育メディア論【平成31年度生まで】
-----	-------------------------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当者	成田 雅博	ナリタ マサヒロ	narita masahiro
-----	-------	----------	-----------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

小・中・高校におけるデジタル版視聴覚教育ともいえる、コンピューターやネットワークを活用したICTを活用した授業を、設計・実施・評価できる実践力を育成します。学習指導要領で強調されている教育方法や、すぐれた教材、教育実践事例を検討、分析してもらいます。キーワード：ICT活用・教育方法・授業研究

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

カリキュラム編成や教材研究、授業研究の枠組みを理解し、教育実践改善の具体的方法を修得します。ICT・視聴覚メディアを活用した教育方法、教材の開発・評価の手法を理解することにより、授業力を修得できます。また、学習指導案の作成・実施・評価やカリキュラム・マネジメントの方法についても修得します。

【授業方法（フィードバックの内容）】

授業記録のビデオ、コンピューターなどによる演示を視聴したり、授業時に配布・紹介した教育実践記録を熟読したりしたあと、そとで実践やカリキュラムについて考察し、評価できる点と改善について議論します。その際、インターネットを活用して、教材や実践事例の情報を集めたり、成果を共有したりします。

【授業外学修の方法（時間数）】

教材や教育実践事例等について、事前配布資料を分析、考察し小レポートを作成します。事後には、他の学生の意見や関連情報をさらに探究します。合計すると、1回の授業について4時間程度の授業外学修が必要です。

【成績評価（方法・基準）】

(1) レポート(30%：論理性・独創性・21世紀型学力の理解)、(2) 授業中・事前・事後小レポート(40%：上記項目1と同じ)、(3) 授業中の質問・建設的な意見表明・議論への貢献(30%)

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	教材「数あてゲーム」「ジュナイユの計算棒」を例に、教育内容と教材の関係を理解する
第2回	教育内容と教材の関係、カリキュラム（教育課程）、学習指導要領との関係、授業の3要素の理解、教育方法に関する理論と実際
第3回	21世紀型学力の概観と、学力育成の方法の探究
第4回	教育方法としての仮説実験授業・授業書
第5回	国際理解教育、異文化理解教育、多文化教育と、それらの典型的な教材である貿易ゲーム
第6回	教育方法としてのゲーム。シリアスゲーム・ゲーミング・ゲーミフィケーション
第7回	「教育の情報化の手引き」を講読して、ICTと教育の係わりに関して分析・発表
第8回	情報教育の目標・内容・方法。情報活用能力の育成と学校におけるICT環境整備
第9回	情報活用の実践力分野・情報の科学的な理解分野・情報社会に参画する態度分野の教材研究
第10回	情報モラル教育の教材・教育方法研究：特にケータイ・スマートフォン等の小中高生への普及にともなう諸問題について
第11回	電子黒板・タブレット・電子教科書等のデジタル教材等ICTを活用した教育方法に関する探究（ICTを活用した探究）
第12回	学習指導案の役割の理解・すぐれた授業の学習指導案の検討・学習指導案と授業実践の関係
第13回	学習指導案、教科書等を参照して、学習指導案を作成・相互評価し、その結果を発表・質疑応答する
第14回	学習評価の理論・方法の理解。授業改善の方法
第15回	学校図書館の役割。これまでの授業のふりかえりとまとめ

【教科書・参考書】

教科書：なし。参考書：授業の研究 教師の学習。秋田喜代美・キャサリン ルイス。明石書店。2008年。日本の授業研究 下巻 授業研究の方法と形態。日本教育方法学会。学文社。2009年。授業研究と学習過程。秋田喜代美。放送大学教育振興会。2010年。授業研究と教育工学。教育工学選書 第6巻。水越敏行他。ミネルヴァ書房。2012年。教育の方法と技術。平沢茂 編著。図書文化社。2014年。幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、特別支援学校学習指導要領。

【学生へのメッセージ】

これまでに小・中・高校で受けてきた授業の良い点、改善すべき点をあらためて振り返り、事前・授業中・事後に提示されるすぐれた授業と比較しながら、自分が授業を設計・実施・評価する立場で熟考してほしい。

【オフィスアワー】

授業日の、昼休み及び開講日のすべての授業の終了後に、教室にて受け付けます。

【実務経験】

留萌高等学校・釧路西高等学校教員（数学・情報処理）5年。教育方法やICT活用に関し、具体的にイメージできる授業にします。

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09005] 文法 (Grammar)						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本語能力試験 (JLPT) N2のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解することができる。一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	1課：～とき・～直後に、2課：～している (進行中)						
第3回	3課：～後で、4課：範囲の始まりと終わり・その間						
第4回	5課：～だけ、6課：～だけではなく・それに加えて						
第5回	7課：～について・～を相手にして、8課：～を基準にして						
第6回	9課：～に関連して・～に対応して、10課：～や～など						
第7回	11課：～に関係なく・無視して、12課：強く否定する・強く否定しない						
第8回	13課：～ (話題) は、14課：～けれど						
第9回	15課：もしそうなら・たとえそうでも、16課：～だから (理由)						
第10回	17課：～だから (理由) 、18課：～できない・困難だ・～できる						
第11回	19課：～を見て評価すると・～の立場で評価すると、20課：結果はどうなったか						
第12回	21課：強く言う・軽く言う、22課：～だろうと思う						
第13回	23課：感想を言う・主張する、24課：提案する・意志を表す						
第14回	25課：強くそう感じる・思いが強いられる、26課：願う・感動する						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N2』友松悦子他著 (スリーイーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N2 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。							
【学生へのメッセージ】							
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 [https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html]							
【オフィスアワー】							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
【実務経験】							
同時通訳・翻訳業務の実績あり							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09006] 文法 (Grammar)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本語能力試験 (JLPT) N1のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	第2部1課：文の組み立て ; 決まった形						
第2回	第2部2課：同上 ; 名詞を説明する形式						
第3回	第2部3課：同上 ; 接続に注意						
第4回	第3部1課：時制						
第5回	第3部2課：条件を表す文						
第6回	第3部3課：視点を動かさない手段 ; 動詞の使い方、自動詞・他動詞の使い分け						
第7回	第3部4課：同上 ; 「～てくる・～ていく」の使い分け						
第8回	第3部5課：同上 ; 受身・使役・使役受身の使い分け						
第9回	第3部6課：同上 ; 「～てあげる・～てもらう・～てくれる」の使い分け						
第10回	第3部7課：指示表現「こ・そ・あ」の使い分け						
第11回	第3部8課：「は・が」の使い分け						
第12回	第3部9課：接続表現						
第13回	第3部10課：省略・繰り返し・言い換え						
第14回	第3部11課：文体の一貫性						
第15回	第3部12課：話の流れを考える						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N1』友松悦子他著 (スリーエーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N1 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。							
【学生へのメッセージ】							
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 〔 https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html 〕							
【オフィスアワー】							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
【実務経験】							
同時通訳・翻訳業務の実績あり							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09007] 文法 (Grammar)						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本語能力試験 (JLPT) N1のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	1課：時間関係、2課：範囲の始まり・限度						
第3回	3課：限定・非限定・付加、4課：例示						
第4回	5課：関連・無関係、6課：様子						
第5回	7課：付随行動、8課：逆接						
第6回	9課：条件、10課：逆接条件						
第7回	11課：目的・手段、12課：原因・理由						
第8回	13課：可能・不可能・禁止、14課：話題・評価の基準						
第9回	15課：比較対照、16課：結末・最終の状態						
第10回	17課：強調、18課：主張・断定						
第11回	19課：評価・感想、20課：心情・強制的思い						
第12回	模擬試験						
第13回	模擬試験						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N1』友松悦子他著 (スリーエーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N1 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。							
【学生へのメッセージ】							
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 〔 https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html 〕							
【オフィスアワー】							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
【実務経験】							
同時通訳・翻訳業務の実績あり							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09011] 作文 (Composition)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本講義において日本語の基礎的文法表現をみていく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
本講義受講によって、自らの意見を作文として表現することができるようになる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
日本語科目にて習得した力を作文として表現するため、積極的な予習復習が望まれる。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への参加姿勢20%、質疑応答10%、課題作文70%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション						
第2回	代名詞の使い方 1						
第3回	代名詞の使い方 2						
第4回	代名詞の使い方 3 まとめ						
第5回	接続詞の使い方 1						
第6回	接続詞の使い方 2						
第7回	接続詞の使い方 3 まとめ						
第8回	モノの表現法 相違点と相似点 1						
第9回	モノの表現法 相違点と相似点 2						
第10回	モノの表現法 相違点と相似点 3						
第11回	意見を述べる 1						
第12回	意見を述べる 2						
第13回	意見を述べる 3						
第14回	課題作文 (原稿用紙を使用)						
第15回	課題作文 (レポート用紙を使用)						
【教科書・参考書】							
教科書：『表現テーマ別 にほんご作文の方法 (改訂版)』 (第三書房)、『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』 (スリーエーネットワーク)。参考書：適宜指示する。							
【学生へのメッセージ】							
語学は弛まない積み重ねでやっと力になります。宿題・課題を毎回課すので地道に取り組んでください。							
【オフィスアワー】							
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可 (kimura(a)min.ac.jp)							
【実務経験】							
宗教法人法養寺代表役員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09012] 作文 (Composition)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本講義において日本語の基礎的文法表現をみていく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
本講義受講によって、自らの意見を作文として表現することができるようになる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
読む事から書く事へ。文章作成の基礎を学ぶ。日本語科目にて習得した力を作文として表現するため、積極的な予習復習が望まれる。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
講義への取り組み姿勢20%、質疑応答10%、課題作文70%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション 日本語能力試験にむけて						
第2回	まぎらわしい表現 1						
第3回	まぎらわしい表現 2						
第4回	まぎらわしい表現 3						
第5回	使用されている間違った日本語表現 接続詞						
第6回	使用されている間違った日本語表現 否定						
第7回	使用されている間違った日本語表現 敬語						
第8回	使用されている間違った日本語表現 代名詞						
第9回	使用されている間違った日本語表現 口語表現						
第10回	中間報告 レポート作成						
第11回	討論 その1						
第12回	討論 その2						
第13回	討論 その3						
第14回	課題・報告書作成						
第15回	課題・報告書作成						
【教科書・参考書】							
教科書：『表現テーマ別 にほんご作文の方法 (改訂版)』 (第三書房)、『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』 (スリーエーネットワーク)。参考書：適宜指示する。							
【学生へのメッセージ】							
語学は弛まない積み重ねでやっと力になります。宿題・課題を毎回課すので地道に取り組んでください。							
【オフィスアワー】							
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可 (kimura(a)min.ac.jp)							
【実務経験】							
宗教法人法養寺代表役員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09013] 聴解 (Listening Comprehension)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本人の会話レベルの聴解ができるよう、さまざまな状況下の「会話」や近年の「時事」について、テキストをもとに概説する。また学生が興味・関心を持つ「時事」やニュース等についても取り上げ、幅広く内容理解ができるようにする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
この授業では、受講生が日本語の聴き取りに慣れ、日本語能力検定試験合格レベルまで日本語の聴解レベルを持っていくことを目指す。基礎的な聴き取りから複合的な内容まで含め、日本人の会話レベルの聴解ができるようにする。また、ラジオ放送を理解できるようにする。この授業を受講することで、受講生は日本語を聴き取り理解する力を養うことができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
日本語能力検定試験の問題をヒアリングしながら解いていき、試験問題に慣れていくようにする。また、日常生活やニュース、時事問題に関する内容について会話をすることで、実践的な日本語の理解・習得を図る。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。普段からテレビやラジオを聴くようにし、事前学習として、自分が関心を持ったニュースや時事問題について簡単にまとめてくるようにすること。事後学習では、授業の内容をさらに深める自主学習を行ったり、苦手なところについて練習してくるようにすること。							
【成績評価 (方法・基準)】							
練習問題の成績 (50%)、授業への取り組み (40%)、課題への取り組み (10%) により総合的に評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション 簡単な聞き取り						
第2回	会話 (その1)						
第3回	会話 (その2)						
第4回	会話 (その3)						
第5回	会話 (その4)						
第6回	会話 (その5)						
第7回	会話 (その6)						
第8回	会話 (その7)						
第9回	会話 (その8)						
第10回	時事 (その1)						
第11回	時事 (その2)						
第12回	時事 (その3)						
第13回	時事 (その4)						
第14回	時事 (その5)						
第15回	まとめ 聴解 への布石						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター聴解 日本語能力試験』中村かおり・福島佐知・友松悦子著 (スリーエーネットワーク) 2011年。							
【学生へのメッセージ】							
授業内だけでは、日本語に耳が慣れることはできません。普段の生活の中で、積極的に日本語での会話を行ったり、日本のテレビやラジオ等を聴くようにしましょう。また、テレビやラジオで聴いたフレーズや文章を、同じように発声してみましょう。練習の方法は授業で解説します。							
【オフィスアワー】							
火曜日 : 11 : 55 ~ 12 : 25、木曜日 : 11 : 55 ~ 12 : 25							
【実務経験】							
峡南地域就学相談員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09014] 聴解 (Listening Comprehension)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本人の会話レベルの聴解ができるようテキストをもとに概説する。また学生が興味・関心を持つ「時事」やニュース等について、学生が調べ、プレゼンテーションをする機会を設ける。日本語能力試験を視野に、練習問題に取組むことで、必要なスキルを修得する。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
この授業では、聴解に引き続き、日本語能力検定試験合格レベルまで受講生の日本語の聴解レベルを持っていくことを目指す。複雑な内容でも、日本人の会話レベルの聴解ができるようにする。また、ラジオ放送を理解できるようにする。この授業を受講することで、受講生は日本語を聴き取り理解する力を養うことができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
日本語能力検定試験の問題をヒアリングしながら解いていき、試験問題に慣れていくようにする。また、日常生活やニュース、時事問題に関する内容について会話をするので、さらなる実践的な日本語の理解・習得を図る。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。普段からテレビやラジオを聴くようにし、事前学習として、自分が関心を持ったニュースや時事問題について簡単にまとめてくるようにすること。事後学習では、授業の内容をさらに深める自主学習を行ったり、苦手なところについて練習してくるようにすること。							
【成績評価 (方法・基準)】							
練習問題の成績 (50%)、授業への取り組み (40%)、課題への取り組み (10%) により総合的に評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション						
第2回	練習問題 (その1)						
第3回	練習問題 (その2)						
第4回	練習問題 (その3)						
第5回	練習問題 (その4)						
第6回	練習問題 (その5)						
第7回	練習問題 (その6)						
第8回	練習問題 (その7)						
第9回	練習問題 (その8)						
第10回	練習問題 (その9)						
第11回	練習問題 (その10)						
第12回	練習問題 (その11)						
第13回	練習問題 (その12)						
第14回	模擬試験・解説 (その1)						
第15回	模擬試験・解説 (その2)						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター聴解 日本語能力試験』中村かおり・福島佐知・友松悦子著 (スリーエーネットワーク) 2011年。							
【学生へのメッセージ】							
授業内だけでは、日本語に耳が慣れることはできません。普段の生活の中で、積極的に日本語での会話を行ったり、日本のテレビやラジオ等を聴くようにしましょう。また、テレビやラジオで聴いたフレーズや文章を、同じように発声してみましょう。授業では映画なども見ていくことを予定しています。							
【オフィスアワー】							
火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25							
【実務経験】							
峡南地域就学相談員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09016] 会話 (Conversation)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
目的に応じた自然な会話や口頭発表ができるように、実際の場面を模擬的に体験、練習する。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
話すべき内容とその構成を意識しながら話す力を身につける。自分の考えや気持ちを根拠を示して伝えることができるようになる。抽象的なことが話せ、聞き手の理解や反応に応じた話し方ができるようになる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
会話 で習得した技能をもとに、学生自身が話題提供を行ったり、提案されたテーマについてディスカッションを行う。学外において発表の機会を持つ。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を解き、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノートや配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (50%)、学力確認テストおよび発表 (50%) により総合的に判断します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	好きなシーンを紹介しよう						
第2回	子どもたちに母国の行事を紹介しよう						
第3回	グラフや表を説明しよう						
第4回	困った状況を伝えて交渉しよう						
第5回	不満に対処しよう						
第6回	就職試験制度について説明しよう						
第7回	働くことの意義について討論しよう						
第8回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討						
第9回	身延中学校での交流授業に向けて：発表原稿の作成 / 授業の進め方の検討と練習						
第10回	スピーチコンテストのリハーサル						
第11回	身延中学校での交流授業に向けて：プレゼンテーション						
第12回	心に残る言葉						
第13回	留学生生活を振り返って						
第14回	将来の夢を語ろう						
第15回	まとめ・発表						
【教科書・参考書】							
教科書：『日本語超級話者への道 きちんと伝える技術と表現』荻原 稚佳子、斉藤 真理子著 (スリーエーネットワーク)、2010年。参考書：『日本語おしゃべりのたね第2版』西口光一監修 (スリーエーネットワーク) 2011年、『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』清水崇文編 (スリーエーネットワーク) 2013年、『ロールプレイで学ぶ中級上級への日本語会話』山内博之著 (凡人社) 2014年。その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。							
【学生へのメッセージ】							
自身の意見や考えを積極的に述べることを求める。							
【オフィスアワー】							
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09018] 漢字 (Chinese Character)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
留学生の日本語教育に関する科目の一つであるので、漢字の成り立ちや類義語等、幅広く指導していく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N 1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
【成績評価 (方法・基準)】							
期末テスト50%、小テスト20%、受講態度30%で総合的に評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	同じ部分、同じ音読みを持つ漢字を覚えよう その1						
第3回	同じ部分、同じ音読みを持つ漢字を覚えよう その2						
第4回	訓読みを覚えよう その1						
第5回	訓読みを覚えよう その2						
第6回	難しい読みを覚えよう その1						
第7回	難しい読みを覚えよう その2						
第8回	語彙で覚えよう その1						
第9回	語彙で覚えよう その2						
第10回	語彙で覚えよう その3						
第11回	語彙で覚えよう その4						
第12回	いろいろな覚え方をしよう その1						
第13回	いろいろな覚え方をしよう その2						
第14回	新聞を読もう その1						
第15回	新聞を読もう その2						
【教科書・参考書】							
教科書：『日本語能力試験対策、日本語総まとめN1』（アスク出版）2010年。他に『漢字マスターN1』（三修社）2011年も用いる。参考書：『漢字ビギナーズ、24の法則でわかる』武部良明（アルク）2014年。ほか講義時に指示する。							
【学生へのメッセージ】							
語学学習には事前・事後学習に時間をかけることが必要です。繰り返し繰り返し身につくまで徹底して習練しましょう。							
【オフィスアワー】							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09019] 語彙 (Vocabulary)						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N 1、N 2) 合格レベルの日本語能力を取得する。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って練習問題をこなし、確認しつつ進める。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
毎回の演習50%、課題50%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	演習						
第3回	演習						
第4回	演習						
第5回	演習						
第6回	演習						
第7回	演習						
第8回	演習						
第9回	演習						
第10回	演習						
第11回	演習						
第12回	演習						
第13回	演習						
第14回	演習						
第15回	演習						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)2011年							
『日本語能力試験問題集N1語彙スピードマスター』(ジェイ・リサーチ出版)2011							
『日本人の心がわかる日本語』森田六郎著(アスク出版)2011年							
【学生へのメッセージ】							
語学学習は、事前学習と事後学習がとても重要です。たくさん課題も出しますががんばって受講してください。							
【オフィスアワー】							
木曜12:00-13:00 (要予約、ookada@min.ac.jp)							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09021] 漢字 (Chinese Character)						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
留学生の日本語教育に関する科目の一つであるので、漢字の成り立ちや類義語等、幅広く指導してゆく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N 1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
【成績評価 (方法・基準)】							
期末テスト50%、小テスト20%、受講態度30%で総合的に評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第1～第2回						
第3回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第3～第4回						
第4回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第5～第6回						
第5回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第7～第8回						
第6回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第9～第11回						
第7回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第12～第13回						
第8回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第14～第17回						
第9回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第18～第21回						
第10回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第22～第24回						
第11回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第25～第28回						
第12回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第29～第31回						
第13回	言葉の構成について						
第14回	音の変化について						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』。参考書：『漢字引きナース 24の原則でわかる』武部良明 (アルク社) 2014年、『漢字のなりたち (日英対訳)』白川静 (平凡社) 2016年。							
【学生へのメッセージ】							
語学学習には事前・事後学習に時間をかけることが必要です。繰り返し繰り返し身につくまで徹底して習練しましょう。							
【オフィスアワー】							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09022] 語彙 (Vocabulary)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N 1、N 2) 合格レベルの日本語能力を取得する。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って練習問題をこなし、確認しつつ進める。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
毎回の演習50%、課題50%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	演習						
第3回	演習						
第4回	演習						
第5回	演習						
第6回	演習						
第7回	演習						
第8回	演習						
第9回	演習						
第10回	演習						
第11回	演習						
第12回	演習						
第13回	演習						
第14回	演習						
第15回	演習						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター語彙、日本語能力試験 N 1 』 (スリーエーネットワーク) 2011年							
『日本語能力試験問題集 N 1 語彙スピードマスター』 (ジェイ・リサーチ出版) 2011							
『日本人の心がわかる日本語』 森田六郎著 (アスク出版) 2011年							
【学生へのメッセージ】							
事前・事後学習をきちんと行って、日本語習得につとめてください。							
【オフィスアワー】							
水曜2限 (要予約、ookada@min.ac.jp)							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09023] 文法 (Grammar)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本授業は、基本的には読解に力を入れ、その中で必要に応じて文法事項の確認を行っていく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み30%、模擬試験70%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス：テキストの例題をやってみよう						
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その1						
第3回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その2						
第4回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その3						
第5回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その4						
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その1						
第7回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その2						
第8回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その3						
第9回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その4						
第10回	第3部 実戦問題 その1						
第11回	第3部 実戦問題 その2						
第12回	第3部 実戦問題 その3						
第13回	第3部 実戦問題 その4						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめおよび振り返り						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011年、 『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011年							
【学生へのメッセージ】							
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。							
【オフィスアワー】							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09024] 読解 (Reading Comprehension)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N1、N2) 合格レベルの日本語能力を取得する。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
指定されたテキストに沿って、授業を進めていく。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
毎回の演習50%、課題50%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス、テキストの例題をやってみる。						
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど (1)						
第3回	同上 (2)						
第4回	同上 (3)						
第5回	同上 (4)						
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど (1)						
第7回	同上 (2)						
第8回	同上 (3)						
第9回	同上 (4)						
第10回	第3部 実戦問題 (1)						
第11回	同上 (2)						
第12回	同上 (3)						
第13回	同上 (4)						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめと振り返り						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011、『日本語能力試験問題集N1読解スピードマスター』(ジェイ・リサーチ出版) 2011、『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011。							
【学生へのメッセージ】							
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。							
【オフィスアワー】							
木曜12:00-13:00 (要予約、ookada@min.ac.jp)							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09025] 読解 (Reading Comprehension)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本語能力試験のN1あるいはN2の合格を目標として、指定されたテキストに沿って読解力を高める授業を行う。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験のN1あるいはN2に合格することを目標とする。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
指定されたテキストに沿って、授業を進めていく。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業での取り組み：70%、N1あるいはN2模擬試験：30%。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス、テキストの例題をやってみる						
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど (1)						
第3回	同上 (2)						
第4回	同上 (3)						
第5回	同上 (4)						
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど (1)						
第7回	同上 (2)						
第8回	同上 (3)						
第9回	同上 (4)						
第10回	第3部 実戦問題 (1)						
第11回	同上 (2)						
第12回	同上 (3)						
第13回	同上 (4)						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめと振り返り						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011年 『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011年							
【学生へのメッセージ】							
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。							
【オフィスアワー】							
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09026] 会話 (Conversation)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
この授業では「話す」技能に焦点をあて、日常生活の会話が円滑にできるよう毎回テーマを決め、発表をする機会を設ける。またテキストやディスカッション、ロールプレイを通して多角的に「話す」力の向上ができるよう、授業展開をする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
個人的、一般的な興味に関する話題についての詳細な説明、描写、叙述する力を身につける。この授業を受けることにより、日常生活で円滑なコミュニケーションができるようになる。また、日本語で分かりやすく発表できるようになる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
「話す」技能に焦点を当てた授業である。会話やプレゼンテーションについて、分かりやすく伝えるためにどのような話し方が適切かをテキストやディスカッション、ロールプレイを通して学ぶ。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を解き、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノートや配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (50%)、期末試験および発表 (50%) により総合的に判断します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション						
第2回	自己紹介で好印象を与えよう						
第3回	きっかけを話そう						
第4回	町の様子を話そう						
第5回	健康について話そう						
第6回	自分の特技について伝えよう						
第7回	言い換えて説明しよう						
第8回	印象に残った出来事を話そう						
第9回	比べて良さを伝えよう						
第10回	動きの順序を説明しよう						
第11回	ストーリーを話そう						
第12回	最近の出来事を話そう						
第13回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討 その1						
第14回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討 その2						
第15回	まとめ・発表						
【教科書・参考書】							
教科書：『日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現』荻原 稚佳子、斉藤 真理子著 (スリーエーネットワーク)、2010年。参考書：『日本語おしゃべりのたね第2版』西口光一監修 (スリーエーネットワーク) 2011年、『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』清水崇文編 (スリーエーネットワーク) 2013年、『ロールプレイで学ぶ中級上級への日本語会話』山内博之著 (凡人社) 2014年。その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。 日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。							
【学生へのメッセージ】							
自身の意見や考えを積極的に述べることを求める。							
【オフィスアワー】							
火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25							
【実務経験】							
峡南地域就学相談員							

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			日蓮学系科目
講義名	[01031] 日蓮教団史【資格06031】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	望月 真澄	モチヅキ シンチョウ	mochizuki shincho	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
日蓮聖人入滅から近代までの日蓮教団の展開について講義していく。DVD・ビデオといった映像資料や画像資料も活用する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
日蓮教団と他教団を比較することにより、日蓮教団の歴史と特徴を理解してもらうことを到達目標とする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
具体的な教団史関係の史料を紹介しつつ、授業を進める。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学修120分 該当するテキストの部分を読んでおくこと。事後学修120分 授業で学んだ主な教団史用語や事項を次回授業までに確認しておくこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
学力確認テスト（10%）、小テスト（60%）、授業に取り組む姿勢（30%）				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	授業の概要 中世・近世・近代における日蓮教団の動向			
第2回	六老僧			
第3回	門流の成立			
第4回	日蓮宗の京都進出			
第5回	東国から上洛と寛正の盟約			
第6回	天文法難			
第7回	西国・東国への展			
第8回	日親の諫暁と永祿の規約			
第9回	安土宗論			
第10回	受・不受の論争			
第11回	檀林教育と仏教書の出版			
第12回	祖師信仰と霊場参詣			
第13回	明治維新と廃仏毀釈			
第14回	在家仏教運動と大正・昭和期の日蓮宗			
第15回	全体のまとめ			
【教科書・参考書】				
教科書：日蓮宗テキスト編集委員会編『仏教の教え』改訂版（日蓮宗宗務院刊）2005年。参考書：影山堯雄『日蓮宗布教の研究』（平楽寺書店）1975年、北村行遠・寺尾英智『日親・日奥』（吉川弘文館）2004年、宮崎英修『禁制不受不施派の研究』（平楽寺書店）1959年、望月真澄『近世日蓮宗の祖師信仰と守護神信仰』（平楽寺書店）2002年。				
【学生へのメッセージ】				
小テストを随時実施するので授業に欠席しないこと。				
【オフィスアワー】				
授業内容に関する質問等があれば授業の開始前・終了後に研究室、教室で対応する。				
【実務経験】				
高等学校教員、博物館学芸員として勤務経験あり				

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			日蓮学系科目	
講義名	[01033] 立正安国論概説				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	都守 基一		ツモリ キイチ	tsumori kiichi	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮聖人著作の中で三大部の一つと数えられている立正安国論は、時の為政者へ建白された論述書である。日蓮聖人生涯の中で諸御書に言及され、書写されたことが知られている。法華經の行者日蓮聖人の宗教を理解するために、立正安国論が必須であることを概説してゆく。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
法華經の行者日蓮聖人の宗教を理解するために、立正安国論が必須であることを学び理解する、これが本授業の目標である。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
日蓮聖人がなぜ立正安国論を執筆されたのか。時代背景と宗教的環境等を考察し、日蓮聖人にとっての「立正安国」を学び、現代における立正安国とは、を課題としてゆきたい。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末レポート60%、授業への取り組み姿勢40%で評価する。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	立正安国論が書かれた時代背景				
第2回	日蓮聖人思想の中の立正安国論				
第3回	立正安国論真跡の考究				
第4回	題号：立正とは				
第5回	題号：安国とは				
第6回	問答体による内容 災難の原因				
第7回	問答体による内容 謗法の現状				
第8回	問答体による内容 災難の対治				
第9回	問答体による内容 謗法の禁断				
第10回	問答体による内容 正法への帰依				
第11回	問答体による内容 裳婆即寂光土				
第12回	問答体による内容 宗教と国家・仏法と王法				
第13回	立正安国論の建白とその後				
第14回	破邪顕正				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
テキスト：『立正安国論』日蓮宗宗務院伝道部編（日蓮宗新聞社）2005年。参考書は春秋社発行『日蓮聖人全集』第一巻、『日蓮聖人御遺文講義』第一巻などがある。					
【学生へのメッセージ】					
立正安国論を学ばずして日蓮聖人を語ることはできない。その思いをもって、難解を厭わずチャレンジしてほしい。					
【オフィスアワー】					
授業時間の前後に教室にて受け付ける。					
【実務経験】					
日蓮宗教師・日蓮仏教研究所主任					

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			日蓮学系科目	
講義名	[01034] 立正安国論講読				
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	都守 基一		ツモリ キイチ	tsumori kiichi	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
立正安国論は、日蓮聖人の思想・信仰の出発点であり帰結でもある。旅客と主人との問答を進める内容から、日蓮聖人の主張を概説する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
日蓮聖人の思想・信仰の出発点であり帰結でもある立正安国論における旅客と主人との問答を進める内容から、日蓮聖人の主張を理解することが本授業の目標である。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
立正安国論を読むこと。わかりやすい書き下し文の冊子をテキストに内容を理解しやすいように進めたい。また真跡影写本を部分的に読む試みも体験し、御遺文に親しむ学習の契機としたい。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末レポート60%、授業への取り組み姿勢40%で評価する。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	第一問答から順次、受講生の輪読で進める				
第2回	輪読				
第3回	立正安国論真蹟を読む				
第4回	問答体について				
第5回	引用経典の解説（1）				
第6回	引用経典の解説（2）				
第7回	七難中の他国侵逼と自界叛逆の二難について				
第8回	法然の浄土教「選択集」について（1）				
第9回	法然の浄土教「選択集」について（2）				
第10回	捨閉閣抛について				
第11回	謗法について				
第12回	「汝早く信仰の寸心を改めよ」について				
第13回	「実乗の一善」について				
第14回	三界仏国、即身成仏				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
テキスト：『立正安国論』日蓮宗宗務院伝道部編（日蓮宗新聞社）2005年。参考書は春秋社発行『日蓮聖人全集』第一巻、『日蓮聖人御遺文講義』第一巻 山喜房発行『傍註立正安国論通解』などがある。					
【学生へのメッセージ】					
御遺文に近づくこと、そのために読み慣れること、くりかえし読み、読解力が身につくよう、予習と復習を怠らず、講義に欠席せぬようにつとめよう。					
【オフィスアワー】					
授業時間の前後に教室にて受け付ける。					
【実務経験】					
日蓮宗教師・日蓮仏教研究所主任					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			日蓮学系科目
講義名	[01035] 寺院資料論			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	4 年
担当者	木村 中一	キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
日本の寺院に所蔵されている資料（史料）やその保存建築について、基本的な分類の理解などを中心として理解を深める。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
本講義を受講することにより寺院資料や建築における基礎的知識を得ることができる。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
資料等を配布して授業を進めるが、建築物を実際に見学しての授業も行う予定である。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
事前事後の学修確認25% 授業に対する取り組み姿勢25% 学力確認レポート50%				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	オリエンテーション			
第2回	資料護持			
第3回	寺院資料の現状			
第4回	修理と保存の姿			
第5回	卷子・軸装・折り本			
第6回	保存と管理設備			
第7回	保存設備（建築）と目録作成 その1			
第8回	保存設備（建築）と目録作成 その2			
第9回	宝蔵 その1			
第10回	宝蔵 その2			
第11回	虫損とその対策			
第12回	曝涼 その1			
第13回	曝涼 その2			
第14回	その他、宝蔵建築の事例			
第15回	まとめ。			
【教科書・参考書】				
教科書：適宜、プリントなどを配布する。参考書：『寺宝護持の心得』（ISBN4890451218、1996、日蓮宗宗務院）、その他進捗状況を鑑み、随時指示する。				
【学生へのメッセージ】				
実際の寺院等の見学も行う予定である。日ごろ問題意識をもって講義に取り組んで貰いたい。				
【オフィスアワー】				
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）				
【実務経験】				
宗教法人法養寺代表役員 日蓮宗宗宝霊跡審議会専門員				

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			日蓮学系科目	
講義名	[01036] 教化学【資格06032】				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	桑名 貴正		クワナ カンショウ	kuwana kansyo	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
教化とは衆生に教えを説き仏道に導き、利益を与えることであるが、その教化方法には随自意・随他意・四悉檀等が見られる。また釈尊の悟り内容は三時説の重視に従い、布教上の展開において異なりが見られる。これらの教化上の諸問題について概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
教化学とは、教学を基として布教現場に活かす学問であり、布教現場に立脚した教学のあり方を論理的に考察する学問である。具体的には、釈尊・『法華経』・日蓮聖人の教法を現代に活かし、人々を覚知へと導くための方策を探ることにある。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
キーワードを挙げ、講義資料を読みながら、その言葉・項目について詳説し、質問をしながら、問題点について共に考えていく。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末レポート（50%）。授業参加の状況と受講態度も重視する（50%）。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	イントロダクション：教化学について				
第2回	釈尊の出自と釈尊の教化方法 その1				
第3回	釈尊の教化法 その2				
第4回	釈尊の教化法 その3				
第5回	釈尊の教化法 その4				
第6回	一仏乗の思想について				
第7回	法華経の譬喩について				
第8回	中国仏教における布教展開 その1				
第9回	中国仏教における布教展開 その2				
第10回	日本仏教における布教展開 その1				
第11回	日本仏教における布教展開 その2				
第12回	日蓮聖人における布教展開 その1				
第13回	日蓮聖人における布教展開 その2				
第14回	日蓮聖人における布教展開 その3				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
テキストは当方で用意して配布する。参考書：『教化学概論ノート』浜島典彦著（ミック刊）2004年。					
【学生へのメッセージ】					
教化学に関する総合的理解を得るために、配付資料に基づいて復習し、また次回の講義資料も毎回配布するのでしっかり予習して授業に臨むこと。					
【オフィスアワー】					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
宗教法人妙法寺代表役員					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教学系科目
講義名	[01101] サンスクリット語				
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）	種 類 講義と演習
対象学年	1年	2年	3年	--	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
サンスクリット語のテキストを読むための基礎力を獲得するために必要な文法力と語彙力を養う。文法の説明は講義形式で行い、その後に演習形式で設問を解く。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
中期インドアリアン語に属する標準的なパーニニ文法に基づく名詞、代名詞、形容詞、数詞の変化と音韻の変化などの基礎を習得して、サンスクリット語仏典講読のための基礎力を養うことを目的とする。この講義では、音韻・連声・名詞・形容詞・数詞・代名詞の文法理解ができることを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキストの文法解説を行いながら、テキストに掲載されている練習問題を解く。最初は教員が解答の解説を行うが、途中からは受講生が板書をして、自らその解を示す。専門言語はたいへん難しい！そのため、毎日欠かさず文法内容を反芻して、体に覚えこませるようにすること。受講後は特にホッとせずに、必ず文法書と練習問題を見直して、不明な箇所を残さないようにすること。受講前には、文法書の当該ページを必ず読んでおくこと。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。しかし、理解できなければ時間にとらわれずに理解できるようになるまで、繰り返し取り組むこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
学期末試験60%（筆記試験、サンスクリット文の和訳と文法説明を付す）。授業中の取組40%（練習問題に真剣に取り組み、事前・事後学習の成果が授業中に現れているか）。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	サンスクリット語とは何か				
第2回	文字と発音				
第3回	音の変化 - 母音の変化 -				
第4回	音の変化 - 内・外連声 -				
第5回	名詞・形容詞の変化 - 母音の活用 -				
第6回	名詞・形容詞の変化 - 子音の活用（1） -				
第7回	名詞・形容詞の変化 - 子音の活用（2） -				
第8回	代名詞の変化、比較法と数詞の変化				
第9回	動詞の変化（総論）				
第10回	動詞の変化 第一次活用				
第11回	動詞の変化 第二次活用				
第12回	動詞の変化 アオリスト				
第13回	動詞の変化 完了と使役、条件法				
第14回	実力診断試験				
第15回	試験の解答と解説、全体の総括				
【教科書・参考書】					
教科書は『サンスクリット語初等文法』j.ゴンダ著、辻直四郎校閲、鎧淳訳(春秋社)。参考書は『サンスクリット文法』辻直四郎著(岩波全書)。『新・サンスクリットの基礎』上・下、菅沼晃著(平河出版社)など。辞書は、『梵和大辞典』(講談社)など。					
【学生へのメッセージ】					
原典研究を志すものは、最初でつまづかないように、特に欠席は厳に謹んでもらいたい。					
【オフィスアワー】					
火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可 (ikegami(a)min.ac.jp)。					
【実務経験】					
宗教法人智寂坊代表役員					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教学系科目		
講義名	[01102] 漢文【資格06102】						
期 間	後期（15回）		単位数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	--			
担当者	桑名 貴正		クワナ カンショウ		kuwana kansyo		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
漢文は中国語という外国語で、中国の純粋な記載言語としての文語文であるが、その形を模倣した日本人の文章も含む。仏教漢文の法華経要文を繰り返し訓読することにより、句読点・返り点・送りがない・読まない文字・二度読む文字・返読文字等が自然に会得でき、より漢文に慣れ親しめるために、その要文内容をも深める。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
仏教を研究する上で、漢文体で書かれた仏教文献が多く、漢文読解力は仏書研究上、必要不可欠である。そこで、漢文学修の基礎として、私達が手にしている妙法蓮華経を中心に学修し、漢文に慣れ親しみ、漢文読解力を身につけることを、本授業の目標とする。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
妙法蓮華経の要文をテキストとし、漢文の訓読を反復することを中心として、その要文の内容理解を深め、漢文に慣れ親しむ。繰り返し訓読を重ねることにより、漢文読解の力が養えられる。漢文の訓読の訓練に重点を置き習練をする。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前の学修では、各回の講義内容・テキストの配付資料により、事前学修を2時間以上行うこと。事後の学修では、配付テキスト資料に基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業内の漢文読解修得度テスト50%、授業への取り組み状況も重視する50%。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	序品第一の要文・文殊師利菩薩と弥勒菩薩との修行の相違						
第2回	方便品第二の要文・諸法実相の内容						
第3回	方便品第二の要文・諸仏の世に出現する理由						
第4回	譬喩の要文・成仏の理解						
第5回	法師品第十の要文・成仏の方法 末法悪世に生まれた理由						
第6回	提婆達多品第十二の要文・悪人成仏と女人成仏						
第7回	勸持品第十三の要文・衣座室の修行 二十行の偈						
第8回	如来寿量品第十六の要文・娑婆の本国土性の開頭						
第9回	如来寿量品第十六の要文・良医良薬の譬え 毎自の悲願						
第10回	分別功德品第十七の要文・仏の寿命の聞説の功德 一念信解の功德						
第11回	常不軽菩薩品第二十の要文 但行礼拝						
第12回	如来神力品第二十一の要文 別付属・四句の要法						
第13回	観世音菩薩普門品第二十五の要文 供養の真意 観音の名前の因縁						
第14回	普賢菩薩勸発品第二十八の要文 四法成就等						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：本山頂妙寺蔵版『妙法蓮華経（改正訓点・句読・清濁）』（平楽寺書店）2004年。プリントを配布する。参考書：法華経普及会編『真訓両読 妙法蓮華経並開結』（平楽寺書店）2000年、岩波文庫『法華経』上・中・下 坂本幸男・岩本裕訳注（岩波書店）1997年。							
【学生へのメッセージ】							
これまで、漢文に接する機会はありませんでしたが、反復練習をすれば、容易にそのコツが得られ、仏教専門科目のレポート・卒業論文等において大いに役立つであろう。							
【オフィスアワー】							
授業時間の前後に教室にて対応する。							
【実務経験】							
宗教法人妙法寺代表役員							

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目	
講義名	[01131] チベット語				
期 間	前期 (15回)	単 位 数	選択 (2)	種 類	講義
対象学年	--	2 年	3 年	--	
担当者	望月 海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
チベットの文字とチベット語の基礎的文法を講義する。それとともに、簡単なチベット文を解説することで、自分一人でチベット語仏典を購読する方法を解説する。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】					
そのサンスクリット原典の多くが失われてしまった現在では、チベット語に翻訳された大蔵経は、仏教学研究の上での貴重な資料となる。本講義は、これらのチベット語資料を自由に扱うことができる迫力を習得することを目的とする。チベット語は、その文法が日本語に近い言語であり、親しみやすい言葉である。文字に慣れてしまえば、容易に理解できるようになる。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
教科書に従って、チベット語文法の基礎を学ぶ。ただし、ドイツ語のできない学生には、教科書の和訳を用意する。事前学習 (90分) としては、シラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。事後学習 (90分) としては、学習した文字・単語を覚え、講義内容の理解を含め次回に備えること。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
【成績評価 (方法・基準)】					
学力確認テスト70%、授業への取り組み30%で評価を行う。					
【授業計画 (各回の授業内容)】					
第1回	チベット文字				
第2回	名詞				
第3回	指示代名詞				
第4回	文末不変化辞				
第5回	具格と動詞				
第6回	命令文				
第7回	格不変化辞(1)				
第8回	格不変化辞(2)				
第9回	人称代名詞				
第10回	動詞(1)				
第11回	動詞(2)				
第12回	代名詞				
第13回	動詞のモルフォロジー				
第14回	例文読解				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書: Michael Hahn, Lenbuch der klassischen Schriftsprache. Swisttal-Odendorf1996. 参考書: 山口瑞鳳『概説チベット語文語文法』(春秋社,2002年)、『チベット語初頭文法』高橋尚夫・前田亮道(ノンブル社)2004年、H.A.イェシュケ『蔵英辞典』(臨川書店,1987年)、『蔵漢大辞典』(北京,1985年)					
【学生へのメッセージ】					
チベット語を身につけることは、チベット語文献を読むためや、チベット旅行を容易にするための手段である。チベット語に興味があるだけでは、学習が続かないので、明確な目的をもって学んでもらいたい。					
【オフィスアワー】					
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限					
【実務経験】					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目
講義名	[01132] 大乘仏教概論【資格06132】			
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	--
担当者	望月 海慧	モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
インドにおいて仏教の改革運動として誕生した大乘仏教についてその成立から展開までを講義する。具体的には、様々な大乘経典から論書への展開を経て金剛乗に至るインド仏教の思想的変遷を解説する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
釈尊が開いた仏教の教えは、インドにおいて大乘仏教として大きく展開し、東アジアに伝わった。インドにおける大乘仏教の展開を理解することにより、東アジアの仏教思想の基盤となったものが明らかになる。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
講義であるから、教科書として用いるテキストに従って講義をしていく。それゆえにノートに要点を筆記することに終始することになるであろう。事前学習（90分）としてテキストをあらかじめ読んできて、問題点を明らかにして仏教辞典などを用いて予習をしておくこと。事後学習（90分）としては、講義内容を整理して、次回との関連を明らかにしておくこと。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
学力確認テスト70%、授業への取り組み30%で評価を行う。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	大乘仏教とは何か			
第2回	大乘仏教起源論			
第3回	上座部仏教と大乘仏教			
第4回	戒律と教団			
第5回	菩薩思想			
第6回	般若経			
第7回	華嚴経			
第8回	法華経			
第9回	浄土経典			
第10回	中観思想			
第11回	瑜伽行唯識思想			
第12回	如来蔵思想			
第13回	仏教論理学			
第14回	密教			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
教科書：大正大学仏教学部編『お坊さんも学ぶ仏教の基礎 1 インド編』（大正大学出版会）2016年 参考書：『シリーズ大乘仏教 全10巻』桂紹隆他編（春秋社）2011年、『講座・大乘仏教 全10巻』平川彰他編（春秋社）1981年。				
【学生へのメッセージ】				
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 日本に伝わった仏教が、本来はどのような姿だったのかを考えながら、インドの仏教を理解してもらいたい。				
【オフィスアワー】				
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限				
【実務経験】				
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授				

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目	
講義名	[01133] 中国天台学【資格06133】				
期 間	前期（15回）	単位数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	金 炳坤	キム ビョンコン		kim byung kon	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
この授業では、大乘仏教の代表的な経典の一つである『法華経』の仏教史上における歴史的展開について概観する。とりわけ、本経に対する東アジアの三国（中国・海東・日本）における事例を取り上げ、法華弘通史の全体像の把握に努める。かつ折に触れて『法華経』の漢訳を用い、法華教学史上の重要な経文について紹介・解説する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
この授業を受けることにより、仏典をより身近に感じることができるようになり、本学本宗の所依経典である『法華経』の中心思想並びにその思想史の展開について理解することができるようになる。と同時に原典を読み解く力を身につけることができるようになる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
配付資料に沿って進めていきます。双方向授業を行いますので、iPadは必ず持ってきてください。毎回、授業のまとめ（成績評価の対象）を提出してもらいます。採点后、コメントを付して返しますので、授業外学修に活かしてください。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。毎回の授業で課題が出されますので、次回の授業で発表（成績評価の対象）できるように努めてください。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（20%）、授業のまとめ（30%）、課題提出（20%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	ガイダンス、法華経研究史				
第2回	法華経の成立と展開				
第3回	法華経の成立と展開				
第4回	法華経の思想				
第5回	法華経の思想				
第6回	鳩摩羅什と妙法蓮華経				
第7回	鳩摩羅什と妙法蓮華経				
第8回	智顛と中国天台宗				
第9回	智顛と中国天台宗				
第10回	最澄と日本天台宗				
第11回	最澄と日本天台宗				
第12回	日蓮と日蓮宗				
第13回	日蓮と日蓮宗				
第14回	海東における法華天台思想の展開				
第15回	海東における法華天台思想の展開、まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：授業中に適宜資料を配付する。参考書：『法華思想』横超慧日編著（平楽寺書店）1969年、『法華経の思想と文化』坂本幸男編（平楽寺書店）1965年、『法華経の中国的展開』坂本幸男編（平楽寺書店）1972年、『智慧 / 世界 / ことば』桂紹隆他編（春秋社）2013年、『法華経：あなたもブツダになれる』植木雅俊著（NHK出版）2018年。その他、授業中に適宜資料を配付する。					
【学生へのメッセージ】					
学びの場である大学を存分に活用し、知識を増やし、感性を磨き、智慧を養うこと。					
【オフィスアワー】					
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目
講義名	[01134] 日本天台学【資格06134】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	金 炳坤	キム ビョンコン		kim byung kon
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
「日本仏教の故郷となった比叡山の宗派は天台宗である。そのために日本仏教の教理の淵源も天台宗にもとづくことになる。天台宗の教えを知らなければ、日本仏教の教えのほんとうの意味は分からないことになる。本書は、鎌倉時代の大学者、凝然大徳が書いた『八宗綱要』のなかの「天台宗」の一章の講義である。それは、天台宗の歴史と思想の大綱を初学者が理解するには恰好の書である」（参考書より）				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
最澄は入唐して円戒禅密の四宗を相承し、比叡山に天台法華宗を開創する。門下の円仁や円珍の入唐求法により天台密教は隆盛し、円仁の伝えた弥陀念仏が叡山浄土教となって鎌倉期の浄土教に展開する。平安中期にいたると中古天台といわれる観心主義の教学となって本覚思想を生むにいたり、鎌倉仏教の成立をうながすことになる。このような日本天台宗の展開を踏まえたうえで、『八宗綱要』を通して天台教学の理解を深め、延いては日蓮学へと繋げることを目標とする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
配付資料に沿って進めていきます。双方向授業を行いますので、iPadは必ず持ってきてください。毎回、授業のまとめ（成績評価の対象）を提出してもらいます。採点后、コメントを付して返しますので、授業外学修に活かしてください。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。毎回の授業で課題が出されますので、次回の授業で発表（成績評価の対象）できるように努めてください。				
【成績評価（方法・基準）】				
授業への取り組み姿勢（20%）、授業のまとめ（30%）、課題提出（20%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	ガイダンス			
第2回	天台宗の歴史：天台山国清寺と日本仏教			
第3回	天台宗の歴史：天台宗の宗名と経論			
第4回	天台宗の歴史：天台宗の宗名と経論			
第5回	天台宗の歴史：天台宗の成立と展開			
第6回	天台宗の歴史：天台宗の成立と展開			
第7回	天台宗の教理：五時八教、化法の四教、三蔵教			
第8回	天台宗の教理：三蔵教			
第9回	天台宗の教理：三蔵教			
第10回	天台宗の教理：通教			
第11回	天台宗の教理：別教			
第12回	天台宗の教理：円教、仏身、仏土			
第13回	天台宗の教理：化儀の四教、五時			
第14回	天台宗の実践：一心三観と四種三昧			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
教科書：『八宗綱要；下』平川彰著（大蔵出版）1981年。参考書：『八宗綱要：仏教を真によく知るための本』鎌田茂雄全訳注（講談社）1981年、『天台思想入門：天台宗の歴史と思想』鎌田茂雄著（講談社）1984年、『天台四教儀』李永子訳注（経書院）1988年、『法華玄義を読む：天台思想入門』菅野博史著（大蔵出版）2013年、『天台四教儀談義：法華経理解を深める天台学へのいざない』三友健容著（大法輪閣）2016年。辞典類：『天台学辞典』河村孝照編著（国書刊行会）2013年。その他、授業中に適宜資料を配付する。				
【学生へのメッセージ】				
学びの場である大学を存分に活用し、知識を増やし、感性を磨き、智慧を養うこと。				
【オフィスアワー】				
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。				
【実務経験】				
なし				

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目	
講義名	[01135] 中国仏教概論【資格06135】				
期 間	後期（15回）		単位数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
一世紀頃にシルクロードを通して中国に伝わった仏教は、儒教や道教と対立・融合しながら受容され、支謙・竺法護・鳩摩羅什といった訳経僧に加え、法顕・玄奘など求法僧の活躍により多くの仏典が漢訳され、その後、三論・天台・三階教・法相・律・華嚴・密教・浄土教・禅など各宗派・学派の形成により、中国仏教という独自の宗教思想が展開されるようになる。本講義は、仏教の中国における歴史的展開の理解に努めるものである。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
中国仏教の歴史的な展開について理解することができ、日本仏教との関係性の中で、その独自性についての私見を深めることができる。中国仏教を中心とする東西の仏教事情について理解することができ、これまでの仏教思想の推移とこれからの仏教学の進展についての素養を身につけることができる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
配付資料に沿って進めていきます。双方向授業を行いますので、iPadは必ず持ってきてください。毎回、授業のまとめ（成績評価の対象）を提出してもらいます。採点后、コメントを付して返しますので、授業外学修に活かしてください。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。毎回の授業で課題が出されますので、次回の授業で発表（成績評価の対象）できるように努めてください。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（20%）、授業のまとめ（30%）、課題提出（20%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	ガイダンス				
第2回	初期の仏教				
第3回	羅什及び南北朝の仏教				
第4回	羅什及び南北朝の仏教				
第5回	羅什及び南北朝の仏教				
第6回	隋唐時代				
第7回	隋唐時代				
第8回	隋唐時代				
第9回	隋唐時代				
第10回	隋唐時代				
第11回	隋唐時代				
第12回	宋代以後の仏教				
第13回	宋代以後の仏教				
第14回	朝鮮半島（海東）の仏教				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『インド・中国・日本仏教通史 [新版]』平川彰著（春秋社）2006年。参考書：『新中国仏教史』鎌田茂雄著（大東出版社）2001年、『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎；2 中国・日本編 [改訂版]』大正大学仏教学科編（大正大学出版会）2016年、『仏教史研究ハンドブック』佛教史学会編（法蔵館）2017年。辞書・事典類：『中国仏教史辞典』鎌田茂雄編（東京堂出版）1981年、『世界宗教百科事典』世界宗教百科事典編集委員会編（丸善出版）2012年、『仏教の事典』末木文美士他編集（朝倉書店）2014年。その他、授業中に適宜資料を配付する。					
【学生へのメッセージ】					
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 学びの場である大学を存分に活用し、知識を増やし、感性を磨き、智慧を養うこと。					
【オフィスアワー】					
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。					
【実務経験】					
2007年より(社)法華弘通会(大韓民国)の奨学研究員として研究を行う。仏教学研究に対する姿勢について示教していく。					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教学系科目		
講義名	[01136] 日本仏教概論【資格06136】						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
紀元前5世紀、仏陀によって開かれた仏教は、その後東漸して、西域を伝わって中国から朝鮮半島を経て日本に伝えられた。これは6世紀のことで、日本における仏教伝来といわれるできごとである。以降、仏教は日本社会に定着していくが、本講義では、仏教伝来から明治仏教までを概説する。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
日本に伝来した仏教がどのように社会に定着し、日本社会に天海していったのか理解することを到達目標とする。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
テキストの他に随時プリントや参考資料を提供し、授業を進めることにする。ビデオ・DVDといった映像資料や画像資料も活用する。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
この授業では、毎回120分以上の事前・事後学修を行うこと。							
【成績評価（方法・基準）】							
小テスト（60%）、学力確認テスト（10%）、授業に取り組む姿勢（30%）によって評価する。授業中に随時小テストを行うので出席が重要となる。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	授業の概要						
第2回	古代仏教：仏教伝来						
第3回	古代仏教：聖徳太子と飛鳥文化						
第4回	奈良仏教：国分寺と東大寺						
第5回	奈良仏教：律令制下の仏教						
第6回	平安仏教：天台真言宗の成立						
第7回	鎌倉仏教：浄土系の展開						
第8回	鎌倉仏教：禅系の展開						
第9回	鎌倉仏教：法華系の展開						
第10回	室町仏教：禅宗の展開と教団一揆						
第11回	安土桃山仏教：織豊政権と仏教						
第12回	江戸仏教：幕藩体制と仏教						
第13回	江戸仏教：庶民仏教の展開						
第14回	明治仏教：神仏分離と廃仏毀釈						
第15回	総括						
【教科書・参考書】							
教科書：千葉乗隆・北西弘・高木豊共著『仏教史概説～日本篇』（平楽寺書店）1969年。参考書：辻善之助『日本仏教史』10巻（岩波書店）1969年、末木文美士『日本仏教史－思想史としてのアプローチ』（新潮社）1992年、平岡定海他『日本仏教史年表』（雄山閣）1999年、大野達之助編『日本仏教史辞典』（東京堂出版）1979年、図説『日本仏教の歴史』飛鳥時代・平安時代・鎌倉時代・室町時代・江戸時代・明治時代（佼成出版）1996年。							
【学生へのメッセージ】							
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 基本的には毎回小テストを行うので授業に出席すること。							
【オフィスアワー】							
授業の開始前、終了後に質問等があれば研究室、教室で対応する。							
【実務経験】							
日蓮宗の教師資格があり、高等学校（日本史）教員の経験あり。							

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目
講義名	[01137] 東南アジア仏教概論			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	4 年
担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
インドからスリランカを経由して、東南アジア全域に広がっていった上座仏教の歴史について概観し、その後、現在成立している国々の仏教事情を詳述する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
大乘仏教とは違った発展をしている東南アジア仏教国について、思想的な特徴を認識し、歴史の変遷を理解し、その上で各国の現代仏教事情を儀礼と習俗、政治と仏法との関係から論じられるようになることを目的とする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
講義形式で行う。IWBまたはプロジェクターと配布資料を用いて、解説を加える。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。学習内容は、その都度配布される資料またはファイルキャビネットから当該の授業に必要な資料をダウンロードして活用すること。資料の指示は教員から予告される。				
【成績評価（方法・基準）】				
学期末試験レポート50%（各国の仏教の特徴を述べること）、授業での取組30%（事前学習で知った予備知識を用いてプレゼンテーションを行う）、中間レポート1回20%（東南アジア全般の仏教史が終わったところで、まとめのレポートを課す）。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	授業の進め方、上座仏教とは何か？			
第2回	仏教の伝播、インドからスリランカへ			
第3回	上座仏教の戒律			
第4回	上座仏教の教義			
第5回	東南アジア仏教史ーシュリービジャヤ王国と島嶼部			
第6回	東南アジア仏教史ークメール以前の半島部と仏教			
第7回	東南アジアの仏教に関する調べ学習発表会			
第8回	スリランカ仏教史			
第9回	スリランカ仏教史 植民地時代～現代の仏教事情			
第10回	ミャンマー仏教史			
第11回	ミャンマー仏教史 と現代の仏教事情			
第12回	カンボジア仏教史と現代の仏教事情			
第13回	タイとラオスの仏教史			
第14回	タイとラオスの仏教史 と現代の仏教事情			
第15回	ベトナム仏教史と現代の仏教事情、まとめ			
【教科書・参考書】				
テキストは特に指定しない。各国仏教の情報についてはその都度紹介する。辞書は、パーリ学仏教文化学会上座仏教事典編集委員会編「上座仏教事典」（めこん）を利用すること。PPのファイルはファイルキャビネットに納めるので、その都度ダウンロードして、事前学修に用いること。				
【学生へのメッセージ】				
仏教通史、インド仏教史を履修済みであること。				
【オフィスアワー】				
火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。				
【実務経験】				
宗教法人智寂坊代表役員				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目
講義名	[01138] チベット仏教概論			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	4 年
担当者	望月 海慧	モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
チベットは、インドの大乗仏教が直接に伝わった地である。その仏教伝承から、チベット仏教の各宗派の歴史と思想、および内陸アジアにおける展開について解説する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
チベットは、インドの大乗仏教が直接に伝わった地域である。それ故に、チベットの仏教を理解することで今は滅びてしまったインドの大乗仏教の様子を知ることができる。また、チベット仏教を理解することで、現在の日本仏教の在り方を再認識することができる。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
教科書に従って、チベット仏教を講義する。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
学力確認テスト70%、授業への取り組み30%で評価を行う。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	チベットの文化			
第2回	チベットの歴史			
第3回	インド仏教の受容			
第4回	カダム派			
第5回	ニンマ派			
第6回	カギュ派			
第7回	シチェ派			
第8回	サキャ派			
第9回	チョナン派			
第10回	ゲルク派			
第11回	ボン教			
第12回	中国西域仏教			
第13回	モンゴル仏教			
第14回	現代のチベット			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
教科書：『チベット仏教思想史』望月海慧（身延山大学）1998年。参考書：『新アジア仏教史09チベット 須弥山の仏教世界』（佼成出版社）2010年。				
【学生へのメッセージ】				
チベット仏教は現在も存在する仏教なので、実際にチベットの僧院を訪問し、どのような仏教なのかを体験してもらいたい。				
【オフィスアワー】				
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限				
【実務経験】				
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授				

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教実践系科目
講義名	[01202] 読経				
期間	通年（30回）		単位数	選択（2）	種類 演習（全期）
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi
	振屋 裕匡		フルヤ コウキョウ		furuya yukyo
	古谷 晃淳		フルヤ コウジュン		furuya koujyun
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
現在までの檀林や門流の教育が受け継ぎ残された結果、法華経の読み方、読み癖について多種多様あり、教育法も師子相承に任され、曖昧な点が多い。また読経上において、本宗の依経である法華経三部経というものが軽視されつつあるので、三部経の転読・読経実践につとめたい。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
本講義受講により『妙法蓮華経』開結を含めた読誦が可能となることを目的とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
一々文々で繰り返し（オウム返し）にて、読経練習を行なう。できれば、前期で2～3巻は講読したい。講義の都合上、巻数等の前後があるので注意してほしい。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前学習（120分以上） 次回講義部分をあらかじめ読み、わからない箇所を確認しておく。事後学習（120分以上） 読んだ部分を反復学習すること。特に事後学習は必ず行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
読経態度50%、授業への取り組み姿勢20%、修得度30%。受講前に前回受講時の内容を必ず復習すること、受講後は内容の習得が得られるよう反復すること。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	五の巻 提婆達多品第十二の練習				
第2回	五の巻 勸持品第十三の練習				
第3回	五の巻 安樂行品第十四の練習				
第4回	五の巻 安樂行品第十四の練習				
第5回	五の巻 従地涌出品第十五の練習				
第6回	五の巻 従地涌出品第十五の練習				
第7回	六の巻 如来寿量品第十六の練習				
第8回	六の巻 分別功德品第十七の練習				
第9回	六の巻 分別功德品第十七の練習				
第10回	六の巻 随喜功德品第十八の練習				
第11回	六の巻 法師功德品第十九の練習				
第12回	六の巻 法師功德品第十九の練習				
第13回	七の巻 常不輕菩薩品第二十の練習				
第14回	七の巻 如来神力品第二一の練習				
第15回	七の巻 囑累品第二二 薬王菩薩本事品第二三の練習				
第16回	七の巻 薬王菩薩本事品第二三の練習				
第17回	七の巻 薬王菩薩本事品第二三・妙音菩薩品第二四の練習				
第18回	七の巻 妙音菩薩品第二四の練習				
第19回	八の巻 観世音菩薩品第二五の練習				
第20回	八の巻 観世音菩薩品第二五の練習				
第21回	八の巻 陀羅尼品第二六の練習				
第22回	八の巻 妙莊嚴王品第二七の練習				
第23回	八の巻 妙莊嚴王品第二七の練習・普賢菩薩勸発品第二八の練習				
第24回	八の巻 普賢菩薩勸発品第二八の練習				
第25回	結経（一）				
第26回	結経（二）				
第27回	結経（三）				

第28回	結経（四）
第29回	読経試験
第30回	読経試験
【教科書・参考書】	
<p>三部経本 お経本に直接仮名振りして頂くので、仮名付きではなく仮名無し本を準備して下さい。お経本の種類は問いません。 お経品をお持ちでない方は、堀之内妙法寺版・振屋昌光監修『妙法蓮華経三部経』の購入を推奨します。</p>	
【学生へのメッセージ】	
<p>授業ではお経本以外に筆記用具（特に赤鉛筆又は修正可能な赤ペン）持参のこと。僧侶としての最低ラインと認識し、今後絶対に必要なことであるので授業以外にも練習を繰り返し行なってほしい。</p>	
【オフィスアワー】	
<p>木村中一：火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp） 振屋裕匡：授業の前後に教室にて受け付ける 古谷晃淳：授業の前後に教室にて受け付ける</p>	
【実務経験】	
<p>木村中一：宗教法人法養寺代表役員 振屋裕匡：宗教法人長福寺副住職 古谷晃淳：宗教法人童仙寺副住職</p>	

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教実践系科目
講義名	[01203] 法要実践				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）		種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	--	
担当者	村上 通明		ムラカミ ツウミョウ		murakami tsumyou
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
『宗定日蓮宗法要式』を用いてその理念を解説し、その内容を実習する。宗定7曲の声明を実唱し、その所作を実習する。法要に必要な法具の扱いや、鳴らし物の扱いを実習する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
日蓮宗の法要儀式の規範書である『宗定日蓮宗法要式』に示される「法要とは三宝帰依の純一無雑なる信仰が最高度に具現化されたものでなければならない」との精神を理解した上で、法要儀式の基本を反復修練することによって、将来の本宗教師として依って立つ根幹を伝えたい。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
『宗定日蓮宗法要式』の内容に従って宗定の法式の理念を学ぶ。その理念に基づいて、大学の実習室及び身延山の堂宇を使用して、宗定声明七曲の誦唱法と所作等の習礼を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習120分：受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、内容の理解を深めること。事後学習120分：受講後は内容の習得が得られるよう反復すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト20%、授業への取り組み姿勢80%で評価する。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	「宗定日蓮宗法要式」の歴史と理念について・二大得意・音調と発声法				
第2回	「宗定日蓮宗法要式」の内容について・七方便・音調と発声法・諸種要文				
第3回	「宗定日蓮宗法要式」の内容について・七方便・音調と発声法・諸種要文				
第4回	「宗定日蓮宗法要式」の内容について・七方便・音調と発声法・諸種要文				
第5回	「宗定日蓮宗法要式」第三編の宗定声明七曲の誦唱法と所作の習礼（道場偈・三宝礼）・発声法				
第6回	「宗定日蓮宗法要式」第三編の宗定声明七曲の誦唱法と所作の習礼（切散華・呪讃）・発声法				
第7回	「宗定日蓮宗法要式」第三編の宗定声明七曲の誦唱法と所作の習礼（対揚）・発声法				
第8回	「宗定日蓮宗法要式」第三編の宗定声明七曲の誦唱法と所作の習礼（三帰・奉送）・発声法				
第9回	「宗定日蓮宗法要式」第二編中の行軌作法の解説とその実践（十正修）				
第10回	「宗定日蓮宗法要式」第二編中の行軌作法の解説とその実践（十正修）				
第11回	「宗定日蓮宗法要式」第二編中の行軌作法の解説とその実践（君拾補遺）				
第12回	「宗定日蓮宗法要式」第二編中の行軌作法の解説とその実践（君拾補遺）				
第13回	「宗定日蓮宗法要式」第一編中の基本的法要次第による習礼・勧請文・回向文				
第14回	「宗定日蓮宗法要式」第一編中の基本的法要次第による習礼・朝昏礼誦式				
第15回	法要実習・まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『宗定日蓮宗法要式』、担当教員作成のプリント、参考書：宮崎英修編著「新編日蓮宗信行要典」平楽寺書店、CD日蓮宗声明、優陀那院日輝和上著「充治園禮誦儀記」、「日蓮宗事典」、「妙行日課」平楽寺書店、原文対訳「立正安国論」大東出版社。					
【学生へのメッセージ】					
受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、内容の理解を深めること。受講後は内容の習得が得られるよう反復すること。授業中に指示した各関連書籍を読み、復習しつつ受講することが望ましい。そのため、受講にあたり、あらかじめ指示した参考書は必ず読んでおくこと。さらに受講後は「まとめノート」の作成が必須である。授業中に配布した資料は、クリアファイル等に保存し、毎回授業に持参すること。					
【オフィスアワー】					
毎週金曜日4時限目の授業の前後に教室で受け付ける。					
【実務経験】					
日蓮宗声明師会講師17年、信行道場の指導10年					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[01732] インターンシップ				
期 間	通年（1回）	単 位 数	必修（2）	種 類	実習
対象学年	--	2 年	3 年	4 年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直す。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
将来の就職先について、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計10日間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしかや遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>（1）一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>（2）身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
インターンシップ内容やインターンシップ先については担当教員と話し合っ決めてください。					
【オフィスアワー】					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）					
【実務経験】					
宗教法人法養寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[01735] インターンシップ				
期 間	通年（1回）	単 位 数	必修（2）	種 類	実習（全期）
対象学年	--	2 年	3 年	4 年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直す。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
将来の就職先について、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計10日間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしかや遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>（1）一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>（2）身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
インターンシップ内容やインターンシップ先については担当教員と話し合っ決めてください。					
【オフィスアワー】					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）					
【実務経験】					
宗教法人法養寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[01738] インターンシップ				
期 間	通年（1回）	単 位 数	必修（2）	種 類	実習（全期）
対象学年	--	2年	3年	4年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直す。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
将来の就職先について、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計10日間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしかや遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。				
【教科書・参考書】					
特にない。					
【学生へのメッセージ】					
インターンシップ内容やインターンシップ先については担当教員と話し合って決めること。					
【オフィスアワー】					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）					
【実務経験】					
宗教法人法養寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[01741] インターンシップ				
期 間	通年（1回）	単 位 数	必修（2）	種 類	実習（全期）
対象学年	--	2年	3年	4年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直す。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
将来の就職先について、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計10日間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしかや遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。				
【教科書・参考書】					
特にない。					
【学生へのメッセージ】					
インターンシップ内容やインターンシップ先については担当教員と話し合って決めること。					
【オフィスアワー】					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）					
【実務経験】					
宗教法人法養寺代表役員					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[01748] キャリア教育						
期 間	前期（15回）		単位数	選択（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	淡路 実春		アワジ ミハル		awaji miharu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
就職支援							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
自分の夢や人生の目標を持って豊かなキャリアを築くための基礎をつくること、学生と社会人の違いを考えつつ、社会人として必要な知識や心構えを習得することを主な課題として、4年生の春から本格的にスタートする就職活動に向けて一足早く準備を始めます。また、連絡を取り合う手段として頻繁に使用する電話対応のしかたを学びながら、社会で役立つ知識を習得していきます。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションなどを行います。講義の内容によっては、知識を得るだけでなく、簡単なゲームなどを通して「感じる」「考える」時間を作っています。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日20分間自分自身について、将来について、考える時間を作ってください。							
【成績評価（方法・基準）】							
小論文試験（30%）、授業への取り組み姿勢（40%）、課題提出（30%）によって評価します。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	スキル開発その1 ビジネス電話						
第2回	スキル開発その2 ビジネス電話						
第3回	スキル開発その3 ビジネス電話						
第4回	スキル開発その4 ビジネス電話						
第5回	スキル開発その5 ビジネス電話						
第6回	スキル開発その6 ビジネス電話						
第7回	なりたい自分になる 夢の叶えかた						
第8回	コミュニケーションの基本その1						
第9回	コミュニケーションの基本その2						
第10回	マナーの基本1						
第11回	マナーの基本2						
第12回	社会人としての心構えその1						
第13回	社会人としての心構えその2						
第14回	知っておきたい法律・規則						
第15回	総括（小論文）						
【教科書・参考書】							
講義はプリントを配布します。							
【学生へのメッセージ】							
講義中は積極的に考え行動してください。また欠席・遅刻をしないよう心掛けてください。							
【オフィスアワー】							
授業の前後、毎週教室にて受け付けます。							
【実務経験】							
高等学校・専門学校・大学・企業研修を担当いたしました。							

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			キャリア系科目
講義名	[01749] キャリア教育			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（1）	種 類 演習
対象学年	--	2 年	3 年	4 年
担当者	淡路 実春	アワジ ミハル		awaji miharu
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
就職支援				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
全員が希望就職先で内定をもらうことを目的とします。就職面接試験は、あなたの人生を大きく左右するほどのとても大切な分岐点です。自己分析や企業研究のしかた、目的、効果を学ぶことで、あなたに合った就職先を見つけられるようになり、志望動機の書き方や自己アピールの作り方、履歴書の書き方などのコツを学ぶことで、自分の魅力をしっかり伝えられるようになります。また、面接やディスカッションのポイントやコツもお伝えしますので、面接で何を表現し、何を語ればよいのかが分かるようになります。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションを行います。実際に自己分析・企業研究をして、これに基づいた志望動機・自己アピールを考えて履歴書を作成します。講義の内容によっては、知識を得るだけではなく、簡単なゲームを通して「考える」「感じる」時間を作っています。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日10分間（1週間で70分）自分自身について、将来について考え、実際の就職活動に活かせるよう努めてください。				
【成績評価（方法・基準）】				
小論文試験（30%）、授業への取り組み姿勢（40%）、課題提出（30%）によって評価します。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	就職活動のプロセス			
第2回	自己分析その1			
第3回	自己分析その2			
第4回	企業研究とマッチング			
第5回	志望動機			
第6回	自己アピール			
第7回	履歴書の書き方			
第8回	お礼状の書き方			
第9回	面接の種類と対策			
第10回	第一印象の重要性と身だしなみ			
第11回	美しい姿勢とお辞儀/面接の流れを確認する			
第12回	正しく聴いて分かりやすく答える（理解する力・伝える力） 質疑応答			
第13回	ディスカッションその1			
第14回	ディスカッションその2			
第15回	総括（小論文）			
【教科書・参考書】				
毎講義時にプリントを配布します。				
【学生へのメッセージ】				
就職活動に必要な知識を得るために、欠席はしないよう心掛けてください。講義中は積極的に考え行動してください。				
【オフィスアワー】				
授業の前後、毎週教室にて受け付けます。				
【実務経験】				
高等学校・専門学校・大学・企業研修を担当いたしました。				